

BUDŌ

NEWS

今月のニュース



2014年日露武道交流年記念ロシア連邦派遣日本武道代表団

演武会にプーチン大統領が列席

カラー特集

2014年日露武道交流年記念

ロシア連邦派遣日本武道代表団

2014年日露武道交流年記念ロシア連邦派遣日本武道代表団（团长 高村正彦 武道議員連盟会長、主催 日本武道館・日本武道協議会、後援 文部科学省・外務省）は11月5～12日の8日間、ロシア連邦モスクワ市に派遣され、現地で日本武道演武会、武道文化セミナー、サンボ70における小規模演武会などの所定の事業を行った。

8日の日本武道演武会にはウラジール・プーチン大統領が来場し、演武を観覧した。演武会は5200名の観客が参集し、現代武道9道と古武道3流派が真髄を披露した。



日本武道の真髄を披露





プーチン大統領も来場し、演武会を観覧した



モスクワっ子 5200 名に





原田親仁駐露特命全権大使



高村正彦団長



ヴィタリー・ムトコスポーツ大臣



大東流合気柔術



少林寺拳法



弓道



相撲



なぎなた



銃剣道



ワークショップ



集合写真



会場となったルジニキ・オリンピックコンプレックス



合気道



剣道



荒木流拳法



柔道



空手道



初實剣理方一流甲冑抜刀術

11月6日 共同記者会見



国営イタル・タス通信社で行われた記者会見には地元報道機関 10 社、日本の報道機関 5 社が集まった

11月6日 表敬訪問



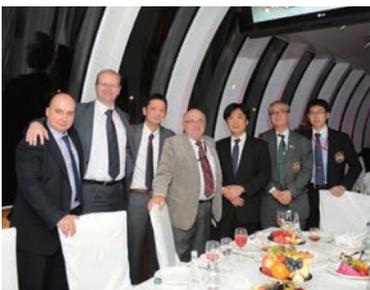
コロブコフ副大臣の案内でスポーツ省内の博物館を見学

スポーツ省にムトコ大臣を表敬訪問

11月6日 ウェルカムパーティー



高村団長を囲んでロシア側関係者と記念撮影



パーティーは船上で行われた



ロシア国立体育スポーツ青年観光大学で武道文化セミナーが行われ、山下泰裕副団長が講演を行った



会場には 500 名を越す学生が集まった



講演の後、現代武道9道と古武道3流派の演武が披露された（左から荒木流拳法、柔道、剣道）

11月10日 小規模演武会



国歌斉唱



モスクワ市体育スポーツ局附属国立国家予算出資型
一般教育機関・スポーツ教育センター「サンボ70」



参加者と演武者で集合写真



ワークショップ



決勝＝黒川を攻める大道（右）



天皇杯を手にし、笑顔の大道



開会式

天皇杯第63回全日本相撲選手権大会

大道久司が初優勝

天皇杯第63回全日本相撲選手権大会は12月7日、東京・両国の国技館で開催された。

決勝で学生横綱の大道久司参段（東洋大）が黒川宗一郎四段（アイシン軽金属）を押し出して、初優勝を飾った（詳細は22〜27頁に掲載）。

内閣総理大臣杯第42回全日本空手道選手権大会

現役世界チャンピオンの喜友名と清水、 堂々たる形で連覇

内閣総理大臣杯第42回全日本空手道選手権大会は、12月6日、7日の両日、東京武道館（6日）と日本武道館（7日）で開かれた。個人形の部では、現役世界チャンピオンの喜友名諒四段と清水希容二段が前年度優勝者として出場。堂々たる形を演武し、連覇を果たした（詳細は30〜37頁に掲載）。



男子形優勝Ⅱ喜友名諒（アーナン）



女子形優勝Ⅱ清水希容（チャタン）ヤラ・クーサンク



決勝=田中（左）対吉井



田中は4年ぶり2度目の皇后盃



開会式

皇后盃第59回全日本なぎなた選手権大会

田中千景に皇后盃

皇后盃第59回全日本なぎなた選手権大会は12月7日、愛知県武道館で開催された。

決勝は、田中千景錬士（京都）と吉井和代錬士（東京）の対戦になり、田中が判定で勝利し、4年ぶり2度目の優勝を果たした（詳細は40〜43頁に掲載）。

2014年日露武道交流年記念

ロシア連邦派遣日本武道代表団

日露武道交流の架け橋に

プーチン大統領も演武を観覧

ロシア連邦派遣日本武道代表団（団長 高村正彦 武道議員連盟会長、主催 日本武道館・日本武道協議会、後援 文部科学省・外務省）は11月5～12日、現代武道9道、古武道3流派の代表者ら75名の団員で組織され、ロシア連邦モスクワ市に派遣された。現地では日本武道演武会、武道文化セミナー、小規模演武会などの所定の事業を行った。本事業は昨年4月に行われた日露首脳会談において、安倍晋三首相とウラジーミル・プーチン大統領によって、本年を日露武道交流年とすることで合意し、その主要事業として行われたものである。

8日の日本武道演武会にはプーチン大統領が列席し、演武を観覧した。演武会は5200名の観客が参集し、現代武道9道と古武道3流派が真髄を披露した。

■結団式・壮行会（11月5日）

出発当日、松永光日本武道館会長、白井日出男理事長、各武道団体代表者らが出席して、成田空港において結団式・壮行会が開かれた。

団員の呼名に続いて、松永会長が壮行のことは述べた。

「日本の武道の名譽にかけて、武道の真髓をロシアの方々に示して、日本の武道の素晴らしさを感じていただけるよう頑張ってください」

次に団長として高村正彦武道議員連盟会長・自民党副総裁が挨拶。

「現代武道9道と古武道3流派の団員の先生方には、モスクワっ子の魂を揺さぶる演武をしていただくようお願いいたします。この派遣事業によって日露の友好関係をさらに深めることができる」と確信しています」

続いて副団長の山下泰裕全日本柔道連盟副会長が日本武道代表団にかける思いを語った。

「各武道の先生方が一つの団となつてロシアに向向くことは大変有意義で価値あることと思います。代表団の行事を通して、日露関係の発展につながるよう、私も副団長として精一杯その役割を務めます」



共同記者会見



国営イタル・タス通信社



高村団長とムトコ大臣



ロシア連邦スポーツ省

最後に白井日出男日本武道館理事長の発声で派遣事業の成功を期して乾杯した。

結団式・壮行会を終えた団員一同は出国手続き後、一路ロシアを目指して日本を発った。

■モスクワ到着（5日）

モスクワ市郊外のシレメチエボ空港へ到着した一行は、原田親仁駐露特命全権大使、パール・コロプコフロシア連邦スポーツ省次官（副大臣）をはじめ、現地関係者の出迎えを受け、市中心部にあるホテルメトロポールへ移動し、翌日からの日程に備えた。

■共同記者会見・表敬訪問（6日）

この日は国営イタル・タス通信社内の記者会見場で共同記者会見が行われた。会見には高村団長、山下副団長、内田プロジェクト責任者、ロシア側からコロプコフ次官、フォル・エメリヤニエンコススポーツ省顧問ら関係者7名が出席し、地元報道関係10社、日本の報道関係5社が来場。また、文部科学省、外務省、各道代表者12名も同席した。

始めにコロプコフ次官が日本武道代表団の概略を説明したのち、高村団長よりロシア訪問の意気込みが語られた。山下副団長は武道を通じた日露友好親善が今後も促進されることを訴えた。また、記者の質問に対してプーチン大統領との親交や大統領への尊敬の念を語った。

続いて、スポーツ省へ移動し、コロプコフ次官による省内のスポーツ博物館の案内を受けた。館内には、ロシア国内のスポーツ競技の歴史や歴代金メダリストなどの使用品や記念品などが飾られており、中には昭和39年の東京五輪の金メダルも展示されていた。

スポーツ省幹部との昼食会の後、ヴィタリー・ムトコ大臣と会談。始めにムトコ大臣より歓迎の言葉が述べられた。

「皆様を心から歓迎いたします。10月にロシア連邦民族・伝統武道代表団が訪日した際、とても温かいおもてなしを受けたことにお礼を申し上げます。橋本久美子元首相夫人と安倍昭恵首相夫人がなぎなたの演武をされましたが、大変素晴らしく感動的でした。今回の日本武道演武会も

とても楽しみにしております」

続いて高村団長より10月の事業について説明がなされた後、今回の訪露に対するロシア側の協力に感謝が述べられた。

また、ムトコ大臣に兜飾りと記念品の目録を贈呈。これに対して大臣よりロシアの鉄兜が高村団長に手渡された。

■ウエルカムパーティー(6日)

夜はスポーツ省主催のウエルカムパーティーが、モスクワ川を航行する船上レストランで行われた。パーティーにはコロプコフ次官以下、スポーツ省、モスクワ市幹部が出席して代表団一向を歓迎。パーティーではコロプコフ次官、エメリヤニエンコ顧問、ヴォロビョフモスクワ市スポーツ局長、ラミール・ガソフロシア武道連盟事務局長が挨拶した。日本側からは高村団長、原田大使、石川誠己外務省ロシア交流室長が挨拶を述べた。パーティーでは、ロシア民謡や日本の演歌の演奏も行われ、団員たちは、モスクワの夜景とともに船上クルーズを束の間楽しんだ。



ウエルカムパーティーはモスクワ川を航行する船内で行われた

■武道文化セミナー(7日)

ロシア国立体育スポーツ青年観光大学の講堂で武道文化セミナーを実施した。開会1時間前から聴講者らが集まり始め、開会予定時刻には500名に達し、場内は立ち見の観客が出るまでとなった。

開会式では、始めに高村団長の挨拶の後、アレクサンドル・ブレイレル学長が歓迎の言葉を述べた。

「本学は武道を研究している学生が多くおります。本日のセミナーは日本の武道や文化に触れる素晴らしい機会です。武道は日本の宝であり、



同大には柔道場も完備されている



ロシア国立体育スポーツ青年観光大学

紹介していただけるのはとても重要な機会だと考えています」

続いてボリス・グリーシンスポーツ省夏季スポーツ発展局副局長が挨拶に立った。

「この大学はスポーツに関するロシア最大の大学です。これをきっかけに、ロシアで武道が一層普及することを期待します」

高村団長から記念品の文箱と武道関連書籍の目録贈呈が行われ、返礼として、大学から高村団長と山下副団長に対してそれぞれ記念品が贈呈された。

セミナーでは、始めに山下副団長が「武道で育む友情と国際交流」と



開場時には武道演武会のチラシが配布された

題して講演を行った。講演の中で、山下副団長は尊敬する人物としてプーチン大統領を取り上げ、自身との

交流のきっかけや人柄を紹介しながら、柔道を通して学んだことを人生に活かしている本物の柔道家と評した。また、武道が目指しているものは、心や体を磨き高め、それを日常生活でより良いことに活かすこととし、武道は国や民族の違いを超えて友情を育むことができること、これからも柔道で世界の国々が友情を育み、また日本とロシアが一層友好と親善を深めることができるよう努力していきたい、と述べて結んだ。

講演に続いて、現代武道9道と古



終了後には演武者が現地の方と記念撮影をする場面も

武道3流派が演武を披露した。最後に高村団長から謝辞が述べられて幕を下ろした。

■日本武道演武会

ワークシヨップ(8日)

開場前から入場を待つ観客が多く集まり、開会予定時刻が近づいても入場の列が途切れることなく続いた。入場が落ち着いた頃合いを見計らって開会。拍手に迎えられて演武者が入場した。来賓が整列して、日露両国の国歌斉唱となった。

次に高村団長が挨拶に立った。「本日の演武されるそれぞれの武道は、技の体系は全く違いますが共通



開場を待つ観客

のものがありません。礼に始まり礼に終わる。技を修練する中で心と体を鍛える。そして、人間が生きるべき道を求める。この3つです。今日は皆さんにそれぞれの素晴らしい技を十分堪能いただき、さらに武道の心を感じ取ってもらえれば、これに勝る幸いはありません」

続いて原田大使が挨拶を述べた。「日本武道代表団による演武が盛大に開催されることについて、日本政府を代表してお祝い申し上げます。日露武道交流年を通じ、皆様が日本の武道、日本の精神に触れて、日本に対する理解を深めていただくことを祈っております」

次にムトコ大臣が歓迎の言葉を述べた。

「日本武道代表団を心から歓迎します。本年はロシアと日本において、武道交流発展の大変素晴らしい一年です。10月には東京でロシア連邦民族・伝統武道団交流演武会が開かれ、サンボやコレッシュなどを紹介いたしました。本日は皆さまに日本の武道を体験していただき、美しさだけでなくより日本の心、精神をも味わっていただきたいと思います」



弓道



大東流合気柔術



少林寺拳法



銃剣道



荒木流拳法



初實剣理方一流甲冑抜刀術



なぎなた



合気道



剣道



空手道



柔道



相撲

最後にヴォロビオフ局長が祝辞を述べて演武種目の紹介となり、演武に移った。

演武は弓道、少林寺拳法、大東流合気柔術、銃剣道、なぎなた、相撲、荒木流拳法、剣道、合気道、初實剣理方一流甲冑抜刀術、空手道、柔道の順に行われた。

相撲の演武中に、ウラジーミル・プーチン大統領が来場。大統領は高

村团长、山下副团长と握手を交わして着席。大統領は高村团长と笑顔で言葉を交わしながら観覧した。

大統領が限られた時間の中で多くの種目を観られるようにしたいロシア側の意向を汲んで、その後の休憩時間も急遽割愛して荒木流拳法の演武に移った。初實剣理方一流甲冑抜刀術の演武終了後、約45分の観覧を終えたプーチン大統領は静かに席を

立つて会場を後にした。

柔道の演武後に行った観客との体験交流では、柔道経験者の子どもも交じって活気ある交流会となった。

閉会式では高村团长が来場者に向かって謝辞を述べた。

「今日は本当に大勢の方にお越しいただきました。また、プーチン大統領のご臨席を仰ぎ、演武者は張り切った武道の真髄を披露しました。技だけでなく、心が観衆の皆さまに伝わったと思います。このことが今後のロシアと日本の友好親善に大いに寄与するでしょう」

会場から団員に満場の拍手が送られて演武会が終了した。

続くワークショップでは、各種目で順番待ちの列ができるほどの盛況ぶりです。柔道や剣道、空手道、合気道などは現地武道団体の経験者も交じって、賑やかな体験交流会となりました。小さな子どもたちが恥ずかしがりながらも演武者に近寄っていき、こわごとと教わったり、相撲演武者に思い切りぶつかって土俵際まで追い込む姿なども見られた。

●参加者の声

・アリンソン君（11歳男性）

所属している柔道クラブで演武会を知った。

「今日は日本をもっと知りたくて来ました。ワークショップでは大東流合気柔術をやってみて、驚くことがたくさんありました。柔道と共通点がいっぱいあって、新しい方法や技を発見して身につけてみたいです」

・セニヨン・フロマンさん（38歳男性）

「私は合気道を学んでいます。今日の演武会をみて、どの種目、流派も先生方の真剣な演武に心を打たれました。これから様々な日本の武道を体験したいです」

・イビチリーナさん（12歳女性）

「弓道をやってみましたが、思ったよりも大きくて難しかったです」

・タチアナさん（26歳女性）

「遅刻してしまっただけしか演武を観られませんでした。日本が好きなのでとても楽しかったです」

■打ち上げパーティー（8日）

演武会終了後、宿舎の大宴会場において、来賓を招いて打ち上げパーティーを実施した。来賓にはコロブコフ次官、倉井高志駐露特命全権公



ワークショップ

使らが出席した。

初めに高村団長が挨拶で関係者に對する謝意を述べた。

「来賓の方々には本日の演武会に對して多大のご協力をいただいたことを心から感謝いたします。そして、

何よりも演武をなさった先生方、完璧な演武で武道の真髓を披露していただき、ありがとうございます。

モスクワっ子の魂を揺さぶったと確信しております。このことが、今後の日露友好親善の発展に資すること間違いのないと思います」

続いて、倉井公使が挨拶に立った。

「本日の演武会は、日露武道交流年でまさに中核をなす行事でした。私も本日の行事を深く記憶にとどめて、これがまた今後一層の日本とロシアの間の文化・スポーツ交流、そして相互理解にますます資する形で発展することをお祈りいたします」

次にコロポコフ次官が演武会の成功を祝した。

「本当に素晴らしい演武をしていただき、心から感謝いたします。多くの観客に大変な感動を与えたと思います。技のレベル、磨かれた技術の高さに感動しております。これから

も日本とロシアの交流と友好関係が發展することを確信しております」

ガバソフ事務局長の祝辞に続いて、石川室長の発声で乾杯し、演武会の成功を祝った。

最後に山下副団長の一本締めでパーティーはお開きとなった。

■交流指導稽古会（9日）

この日は、現地の武道団体との交流指導稽古の実施日に充てられ、武道種目毎に現地武道団体と実施場所、時間を調整して個別に交流指導稽古を行った。

■小規模演武会（10日）

モスクワ市体育スポーツ局付属国立国家予算出資型一般教育機関・スポーツ教育センター「サンボ70」において、小規模演武会（6種目）を開催した。

開会前、臙脂の制服姿の子どもたち500名が会場に行儀正しく着席し、静かに開会を待った。

開会式では高村団長、コロポコフ次官、ヴォロビオフ局長が挨拶。最後に、レナート・ライシェフサンボ70校長が歓迎の挨拶に立った。

「私たちの学校にとつては、本日は大変喜ばしい一日です。日本武道代

表団のご訪問は大変光栄なことです。実はわが校は日本との関係がとて深く、40年にわたり日本との交流を行ってきました。皆様の滞在が記憶に残るよう、私たちも全力を尽くしたいと思えます。ようこそサンボ70にお越しくださいました」

代表団が記念品と目録を贈呈すると、ヴォロビオフ局長とライシェフ校長から団長と副団長にそれぞれ記念品が手渡された。

演武会ではサンボ70の生徒によるサンボの特別演武に続いて、銃剣

道、空手道、なぎなた、荒木流拳法、

柔道、初實剣理方一流甲冑抜刀術の順に各武道が演武を披露。続けてワークショップに移った。サンボ70の生徒は、サンボや柔道経験者が多いためか、柔道演武者も目を白黒させながら懸命に応じている様子や、真剣での試し斬りを間近で、おそるおそる見学する様子が見られた。

閉会式では高村団長と山下副団長がそれぞれ謝辞を述べて締めくくった。

■解団式（10日）

全ての予定を終えた10日夕刻、解団式が行われた。

始めに高村団長から成功を収めた団員への労いや謝意を込めて発言があった。

「武道の真髓を發揮していただいたこと、ご協力いただいた全ての皆さんに對して心から御礼を申し上げます。北京で開かれたAPERCの席で安倍総理とプーチン大統領との会談が1時間半という異例の長さで開かれ、冒頭でプーチン大統領から『ルジニキでの演武会を観た。素晴らしい話があり、安倍総理



ワークショップ

から』ご協力とご列席いただいたことに感謝する』という話があったと報告を受けました」

次に山下副団長が挨拶に立った。「我々は武道の普及を通して、武道の精神を伝えるとともに、海外において日本の心を伝えていく、そういう責務を担っています。これからも各武道協力して、武道を世界に広めることを通して、日本の心を世界に広めるということを皆さんと一緒にやって協力していければと思っております」

続いて倉井高志駐露特命全権公使が感謝の言葉を述べた。

「5千人収容のアリーナを埋め尽くし、素晴らしい演武を披露いただいた



解団式

て、大成功だったと確信しております。大使館として心から御礼を申し上げます。これからもずっと末永くロシアの人たちと関係を深めていただければありがたいと思います」

乾杯は団員最年長の菊池邦光荒木流拳法第17代宗家の発声によって行われた。

歓談中、本事業の推進にあたり、ロシアでの連絡・調整を執った在ロシア連邦日本国大使館・大槻耕太郎公使参事官が挨拶に立った。

「今回日本を代表する様々な武道を拝見して感動しました。この思いがロシアの方々にも伝わっていると思います。これからも何度もロシアにお越しいただき、ロシアの武道愛好家、ロシア国民に日本の武道の心をぜひ伝えていただきますようお願いいたします」

最後に日本武道代表団事務局責任者から団員に対する御礼の辞によって解団式はお開きとなった。

■出国(11日)、帰国(12日)

シエレメチエボ空港から出国。9時間20分の空旅の後、全員無事に日本へ帰国した。

【団員名簿】(敬称略)

▽団長 高村正彦(武道議員連盟会長、日本武道館常任理事)

▽団長秘書 川野邦仁(高村正彦事務所)

▽副団長 山下泰裕(全日本柔道連盟副会長、日本武道館評議員)

▽文部科学省 市川清治(競技スポーツ課国際スポーツ室専門職)

▽外務省 吉川英寿(欧州局ロシア課兼ロシア交流室事務官)

▽団長随員 松田卓也(警視庁)

▽事務局 内田康介(教育文化部長、事務局責任者、行成仁志(振興部普及課主任)、横内裕史(振興部業務課主任))

▽柔道 細川伸二(八段)、三戸範之(七段)、向井幹博(七段)、内村直也(六段)、小山昌規(六段)、小塚義隆(六段)

▽剣道 鈴木康夫(範士八段、小笠原宏志(範士八段)、佐藤信秀(教士八段)、吉崎勝(教士八段)、渡邊恵(教士七段)、中村充(教士七段)

▽弓道 浦野雄二(教士七段、川村明義(教士七段)、吉澤喜芳(教士七段)、黒住一道(教士七段)、吉田佳史(教士七段)、清水政範(錬士五段)

▽相撲 金井極(三段)、横田匡加(三段)、中山将太(三段)、杉山秀人(三段)、朝岡秀太(三段)、藤本修巳(二段)

▽空手道 佐々木清巳(範士八段、

長谷川伸一(錬士七段、若井敦子(六段)、長谷川克英(錬士六段)、山口貴史(五段)、牧田拓也(三段)

▽合気道 小林幸光(七段)、桂田英路(六段)、内田直人(四段)、岡崎遼(三段)、佐々木信(二段)、澤井徹(初段)

▽少林寺拳法 日當喜澄(正範士八段)、梅野清嗣(正範士七段)、荒井章士(准範士六段)、田中由喜(大拳士五段)、樋口由衣子(正拳士四段)、樋口麻緒(正拳士四段)

▽なぎなた 畠瀬美佐子(範士)、小野由紀子(教士)、嶋田信子(錬士)、安喰愛(四段)、井上美代(四段)、渡部あずさ(二段)

▽銃剣道 伊藤武人(範士八段)、津田昌泰(範士八段)、新谷嘉成(教士七段)、増田良明(教士七段)、寺村大佑(錬士六段)、増田直実(三段)

▽大東流合気柔術 近藤昌之(七段)、長谷川すみ枝(教授代理)、天野鎮夫(秘伝目録、石井勇一(二段)

▽初實剣理方一流甲曹抜刀術 神崎勝(代表・免許皆伝、多賀俊郎(師範代)、松尾斉(自録)、坂本圭(自録)

▽荒木流拳法 菊池邦光(第17代宗家、永田仁志(免許)、西川二郎(目録)

▽記録 後閑信弥(柳クエスト)

団長以下総勢75名

好評発売中

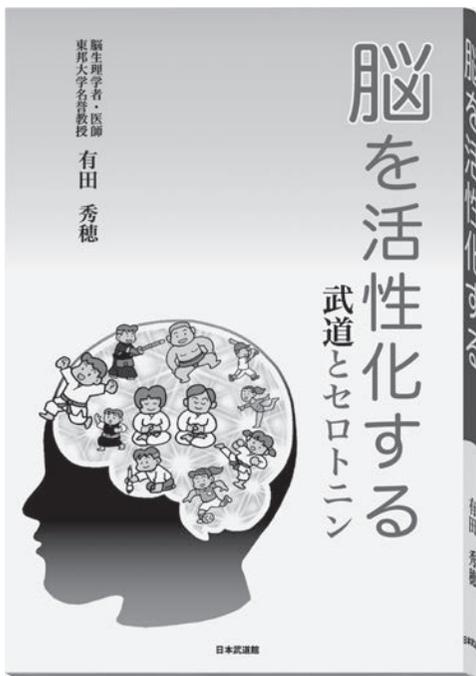
脳生理学者・医師
東邦大学名誉教授

有田 秀穂 著

脳を活性化する

武道とセロトニン

人間の心身を安定させ、「無心」の状態を作るセロトニン神経―その研究の第一人者が、丹田呼吸法を手懸かりに、武道や禅、日本文化を題材として、誰もが
できる脳を活性化する方法をわかりやすく解説。



A5判・並製・346頁・1600円+税

有田 秀穂
(ありた・ひでほ)

昭和23年(1948)東京都生まれ。東京大学医学部卒業。東海大学医学部助手、筑波大学基礎医学系講師、東邦大学医学部教授を経て、現在、東邦大学名誉教授。脳生理学者、医師。セロトニン道場代表。



主な内容

第1部 脳の活性化とは

坐禅とセロトニン

ストレッチとしごき

空海はセロトニン活性の達人

『弓と禅』に学ぶ身体トレーニング

沢庵の「不動智」とワーキングメモリー

不動明王と心の三原色

『弓と禅』に学ぶ無意識の自己意識

悪夢を消すには？

精進料理とセロトニン合成

「茶の湯」とセロトニンの生活

「自然に体が動いた」を脳科学で解く

勝海舟の「明鏡止水の心」を脳科学する

「武道の礼法」は社会脳を育む

相撲の「四股」は品性を育む

書道も心技体の人間修行

アンドロゲンと闘争心

日本の祭にはセロトニンがたっぷり

スキンシップとオキシトシン

空手の稽古は坐禅修行に通じる

脳は「丹田呼吸法」をどう操るか

試合における最適な覚醒状態

サイエンスは「気」をどこまで解明したか

仙人術を脳科学する

第2部 対談「武道で脳を活性化しよう」

日本武道館会長 松永 光

東邦大学名誉教授 有田 秀穂

： 他

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

(翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット)

(B5判・上製・DVD付・336頁)



武士道に学ぶ

皇學館大学教授

菅野 覚明 著

(四六判・上製・344頁)



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

(四六判・上製・278頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



<増補版>

私も武道経験者です

月刊「武道」記者

吉野 喜信 著

(四六判・上製・326頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)



武道・ スポーツの真髄

スポーツドクター

辻 秀一 著

(四六判・上製・248頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



武の素描

埼玉大学教授

大保木輝雄 著

(四六判・上製・220頁)

大道久司が初の天皇杯



決勝トーナメント・決勝

決勝 大道が黒川を押し出した

天皇杯第63回全日本相撲選手権大会

第63回全日本相撲選手権大会（主催 日本相撲連盟）は12月7日、東京・両国の国技館で、アマチュア日本一の座をかけて争われた。大会には過去一年間の各種大会の成績に対して与えられたポイント上位の社会人や大学生、インターハイや国体少年の部で優勝した高校生など、総勢70名が出場した。

大会は、大学横綱の大道久司（東洋大）が決勝で国体準優勝の黒川宗一郎を押し出して、初の天皇杯を手にした。

昨年優勝の川端翔伍は角界入りのため、不出場。昨年準優勝の工藤豪人（日本大学事業部）、国体優勝の荒木関賢悟（東洋大職）、選手権2回優勝の松永六十四（長崎県）、第54回大会優勝で今回が10回出場の日目となった吉田勝雄（九州電力）、大学横綱の大道久司（東洋大）、一年の大学横綱の中村大輝（日本体育大）などに注目が集まった。

予選リーグ

本大会出場のために必要な各種大会の成績に応じて与えられるポイント

トによって、予選で対戦する4人1組が決定し、2勝以上挙げた36名が決勝トーナメントに進出した。ポイント上位の選手が順当に勝ち上がったが、荒木関が2敗し、予選で姿を消した。

■決勝トーナメント序盤戦

黒川は2回戦で横山雄大(長野県)を上手投げで降すと、3回戦では長内拓磨(近畿大)を寄り切って準々決勝進出を決めた。

松永昭久(東京都)は1回戦で三輪隼斗(日本体育大)を、2回戦で濱田光(日本通運)を、3回戦で沢田日出夫(日本大)を破って8強入りを果たした。

昨年準優勝の工藤は2回戦で濱町明太郎(日本体育大)に足を使われ捕まえることができず、最後は寄り切られた。勝った濱町は3回戦で坂元元規(日本大)を押し出した。田中達也(長崎県)は初戦の2回戦で南友太(日本体育大)を破る

と、3回戦では吉田圭祐(アイシン精機)を引き落としした。村松裕介(日本体育大)は2回戦で小柳亮太(東京農業大)を寄り倒すと、3回戦では池川勇氣(近畿大)をすくい投げで降した。

学生横綱の大道は初戦で佐々木耕大(日本大)と対戦し、これを押し出すと、3回戦では選手権2回優勝の松永(六)と対戦。立ち合い、大道は脇を締めて松永にまわしを取らせない。まわしが取れないとみるや

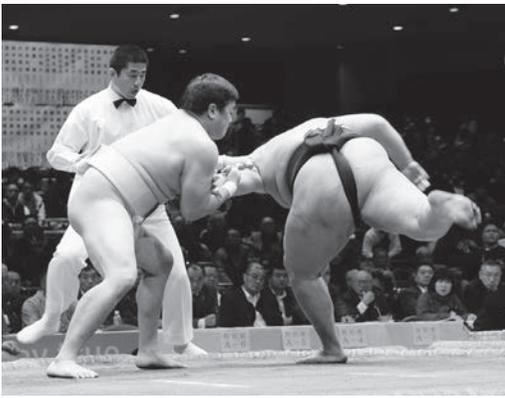
いなや松永は叩こうとするも、大道の突進をいなせず、大道の押し出し。中村は初戦の2回戦で神山達哉(アイシン精機)に敗れ、その神山を3回戦で突き落としした村山大洋(新潟県)が準々決勝に勝ち進んだ。

宮下治也(拓殖大)は2回戦で木崎信志(日本大)を引き落とし、初戦で吉田を、2回戦で高校横綱の城山聖羅(金沢市立工業高)を破った岩見剛也(間口)と対戦。これを突き落としして準々決勝へ。

決勝トーナメント・序盤戦



3回戦Ⅱ黒川(左) 対長内



3回戦Ⅱ松永(昭)(左) 対沢田



3回戦Ⅱ濱町(右) 対坂元

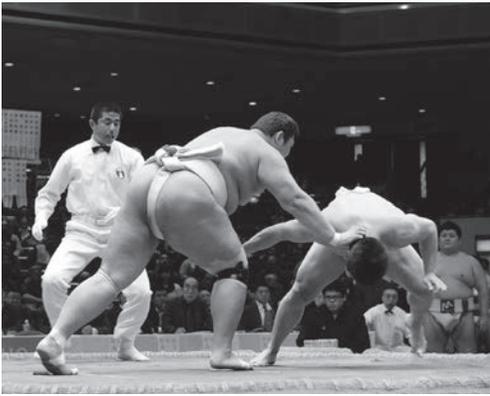


3回戦Ⅱ田中(左) 対吉田

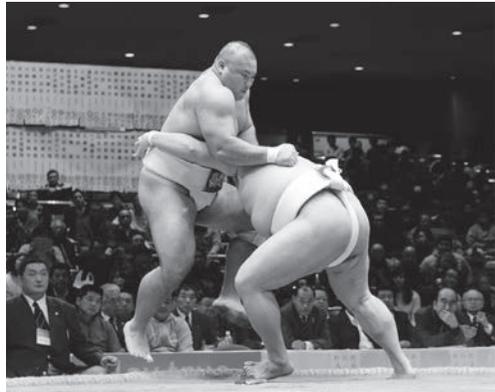
決勝トーナメント・序盤戦



3回戦Ⅱ村松(手前) 対池川



3回戦Ⅱ村山(左) 対神山



3回戦Ⅱ大道(右) 対松永(六)



3回戦Ⅱ宮下(手前) 対岩見

■準々決勝

黒川宗一郎 押し倒し 松永昭久

松永が鋭い立ち合いで黒川を土俵際に追い込むが、黒川はこれを堪える。黒川が体を入れ替えながら右上手を取り、左の小手投げを打って松永の体を振り回し、最後は喉輪で押し込むと松永は土俵を割った。

田中達也 寄り切り 濱町明太郎

両者突き合って濱町が田中を土俵際に追い込むが、田中がうまく体を入れ替えるとそのまま田中が逆転の寄り切り。

大道久司 押し出し 村松裕介

立ち合い、大道が右に変化するも村松はこれに反応して、大道についていく。大道は村松を左肘で搦ち上げ、村松がひるんだ隙に大道が突き押し。村松は抵抗できずに、大道が押し出して準決勝進出を決めた。

宮下治也 突き落とし 村山大洋

村山は立ち合いで喉輪で宮下を止めようとすが、宮下は構わず寄っていく。土俵際、うまく体を入れ替えた村山だったが、攻めに転じたところを宮下が突き落とし、宮下に軍配が上がった。

■準決勝

黒川宗一郎 押し倒し 田中達也

土俵中央で両者激しい突き合い。黒川の叩きに田中が堪えると、体勢を立て直した田中が左の小手投げを打とうと回り込むのに合わせて黒川が押すと、田中が土俵を割って、黒川が決勝進出を決めた。

大道久司 寄り切り 宮下治也

立ち合い、大道は宮下の差し手を脇で絞りながら、一気の寄り。大道は宮下に何もさせずに寄り切って、余裕で決勝へ勝ち進んだ。

■決勝

大道久司 押し出し 黒川宗一郎

黒川が低い体勢から左前禰を窺うが、大道の強烈な突きに体を起こされる。大道はそのまま突き押しで黒川を攻める。黒川も土俵際を回り込んでなんとか残そうとするが、休む間もない大道の押しについて土俵を割り、大道が初の天皇杯を手にした。

●優勝Ⅱ大道久司参段(東洋大)

学生横綱の大道が選手権大会も制覇。他を寄せ付けない相撲で強さが目立った。今回の優勝で学生となっ

決勝トーナメント・準々決勝



黒川(左) 対松永(昭)



大道(左) 対村松



田中(右) 対濱町



宮下(左) 対村山

決勝トーナメント・準決勝



黒川(奥) 対田中



大道(左) 対宮下

てから15個目のタイトル獲得。
 「今日はいつも以上に自分の相撲が
 取れました。プレッシャーもなく、
 のびのびとできたと思います。学生
 した」

横綱を取ったからと言って特に変わ
 ったことはありません。決勝戦は前
 に前にと意識しかありませんで
 した」



入賞者（手前が優勝した大道、後列左から2位の黒川、3位の宮下、田中）

今回の優勝と学生大会優勝で、大
 相撲入りの場合は幕下10枚目付出格
 が認められる。大道がこの権利を使
 って角界入りをすれば、遠藤聖大に
 続いて3人目となる。

「今後のことは監督や両親と話をし
 て、決めたいと思います。あんなに
 体が大きくないですが、遠藤関のよ
 うになりたいです」

と、今後の進路についての明言は
 避けたが、角界入りをして、遠藤の
 ような活躍を期待したい。

●2位 黒川宗一郎四段
 (アイシン軽金属)

「今回はのびのびと大会に臨めたの
 で決勝まで進めたのかなと思ってい
 ます。ただ、決勝でとっさに引いて
 しまったので自分の中では納得がい
 っていません。社会人になってから
 は大学生のときのように常に指導者
 が側にいるという状況ではなくなっ
 た分、自分でいろいろ考えながら稽
 古をしています。来年は今年の雪辱
 をしたいと思っています」

●3位 宮下治也参段 (拓殖大)

「まさかここまで自分が上がってこ

られるとは思っていませんでし
 た。大道選手は東日本学生大会の決
 勝で負けた相手でしたが、今回も相
 撲を取らせてもらえませんでした。
 まだ自分の相撲は甘いところがある
 ので、そこを直していきたいです」

●3位 田中達也四段 (長崎県)

「予選を通過できればいいくらいの
 気持ちで臨んでいましたので、でき
 すぎの結果で満足しています。トー
 ナメントは母校の日体大OBや学生
 が相手でやりやすかったですね。リ
 ラックスしてやれたのもいい結果に
 繋がったのかもしれない」

また、今回の大会に第54回大会優
 勝の吉田勝雄四段が10回目の出場を
 果たし、表彰された。



第63回全日本相撲選手権大会

(決勝トーナメント)

氏名	所属	段位	身長	体重	得意技	結果
斎藤 健	(駒澤大学)	参	185	135	すくい投げ	準優勝
長内 拓磨	(近畿大学)	参	177	130	寄り切り	3位
横山 雄大	(長野県)	参	185	135	上手投げ	3位
黒川宗一郎	(アイシン軽金属)	四	190	160	押し倒し	優勝
沢田日出夫	(日本大学)	参	181	160	突き落とし	準優勝
野口 清之	(長崎県)	四	175	100	肩すかし	準優勝
濱田 光	(日本通運)	四	183	140	押し出し	準優勝
松永 昭久	(東京都)	四	181	110	はたき込み	準優勝
三輪 隼斗	(日本体育大学)	参	174	113	押し倒し	準優勝
坂元 元規	(日本大学)	四	183	175	寄り切り	準優勝
五十嵐 敦	(盛岡市役所)	四	187	165	押し出し	準優勝
工藤 豪人	(日本大学事業部)	四	183	130	寄り切り	準優勝
濱町明太郎	(日本体育大学)	参	180	128	寄り切り	準優勝
田中 達也	(長崎県)	四	177	140	上手投げ	準優勝
南 友太	(日本体育大学)	参	184	160	引き落とし	準優勝
玉木一嗣磨	(近畿大学)	参	180	135	寄り切り	準優勝
吉田 圭祐	(アイシン精機)	四	188	135	寄り切り	準優勝
滝田 真	(三重県)	四	178	114	押し出し	準優勝
小柳 亮太	(東京農業大学)	参	184	156	寄り倒し	準優勝
村松 裕介	(日本体育大学)	参	180	132	すくい投げ	準優勝
池川 勇氣	(近畿大学)	参	190	166	小手投げ	準優勝
下里 匡希	(三重県)	四	178	120	押し出し	準優勝
大道 久司	(東洋大学)	参	180	145	押し出し	準優勝
佐々木耕大	(日本大学)	参	185	150	押し出し	準優勝
中出 雄真	(東洋大学職員)	四	185	175	はたき込み	準優勝
田中 大陽	(撰津倉庫)	五	184	150	突き落とし	準優勝
松永六十四	(長崎県)	五	180	140	寄り切り	準優勝
高橋 修	(長崎県)	四	185	120	引き落とし	準優勝
村山 大洋	(新潟県)	四	183	150	突き落とし	準優勝
中村 大輝	(日本体育大学)	参	182	154	ひっかけ	準優勝
神山 達哉	(アイシン精機)	四	180	105	突き落とし	準優勝
木崎 信志	(日本大学)	参	175	125	引き落とし	準優勝
宮下 治也	(拓殖大学)	参	180	160	突き落とし	準優勝
城山 聖羅	(金沢市立工業高校)	弐	184	155	寄り切り	準優勝
吉田 勝雄	(九州電力)	四	175	118	寄り切り	準優勝
岩見 剛也	(間口)	四	177	150	寄り切り	準優勝

優勝・大道久司(東洋大)

準優勝・黒川宗一郎(アイシン軽金属)

三位・田中達也(長崎県)
・宮下治也(拓殖大)

大会の合間には第27回全日本小学生相撲優勝大会が開催され、6年生、5年生、4年生以下のそれぞれの部門に各33名、合計99名が出場した。結果は左のとおり。

【大会結果】

▽6年生の部 ①向中野真豪(三重) ②伊藤暉(秋田) ③竜口尚大(福岡)、落合駿(三重)

▽5年生の部 ①篠田裕之(石川) ②藤田一翔(神奈川) ③落合哲也(鳥取)、角田虎紀(三重)

▽4年生以下の部 ①内田京汰(静岡) ②成田力道(青森) ③坂井勇麻(広島)、北村優太(長野)



6年生の部入賞者(左から向中野、伊藤、落合、竜口)

一千数百年の歴史を有する
武道の全容をこの一冊に集大成!!
武道小百科事典としても役立つ
充実した巻末の資料編!!

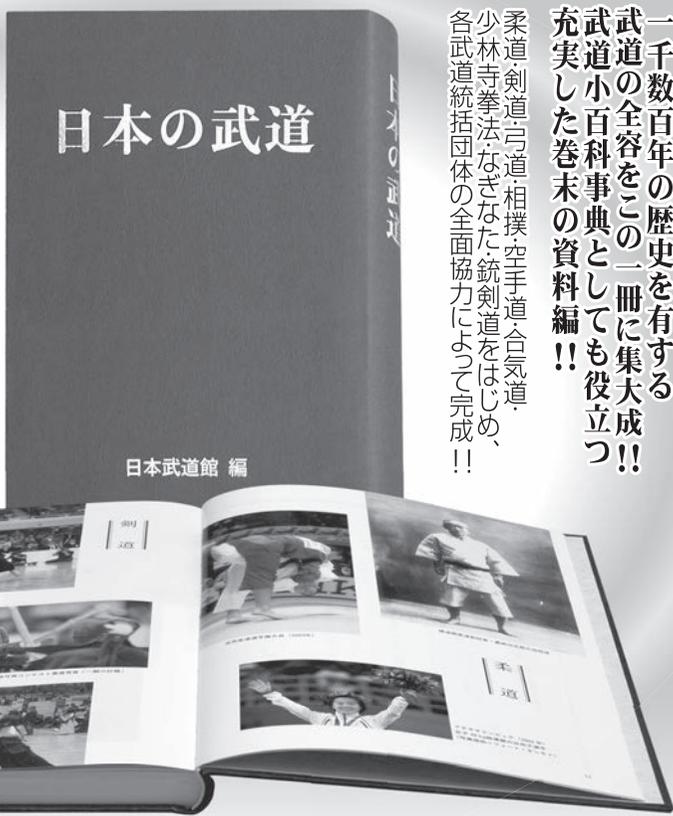
柔道 剣道 弓道 相撲 空手道 合気道
少林寺拳法 なぎなた 銃剣道をはじめ、
各武道統括団体の全面協力によって完成!!

日本の武道のすべてを網羅した武道関係者必携の書

日本の武道

好評発売中!

日本武道館編



(B5判・上製・箱入・526頁)

目次

序章

刊行の辞：塩川正十郎 日本武道館・日本武道協議会会長
刊行にあたって：松永 光 日本武道館理事長
武道のすずめ：養老孟司 東京大学名誉教授
武道憲章〔武道憲章〕〔武道憲章英訳文〕〔ごも武道憲章〕
カラー口絵〔日本武道館 9 武道 10 日武協30年のあゆみ〕

第1章 日本の武道

第1節 日本の武道…………… 杉江正敏 大阪大学教授
第2節 武士道から武道へ…………… 菅野覚明 東京大学大学院教授
第3節 武道の近代化…………… 嘉納治五郎師範の教え：
村田直樹 講道館図書資料部長
大保木輝雄 埼玉大学教授

第4節 武道の魅力…………… 本村清人 東京女子体育大学教授
第5節 学校武道の歴史…………… 菅野 純 早稲田大学教授
第6節 武道の教育力…………… (財)日本武道館

第7節 日本武道館…………… (財)日本武道館

第2章 日本の古武道

第1節 日本の古武道…………… 横瀬知行 古流武術研究者
第2節 古武道の技と心……………

第3章 現代の武道

第1節 柔道…………… (財)全日本柔道連盟
第2節 剣道…………… (財)全日本剣道連盟
第3節 弓道…………… (財)全日本弓道連盟
第4節 相撲…………… (財)日本相撲連盟
第5節 空手道…………… (財)全日本空手道連盟
第6節 合気道…………… (財)合気道連盟
第7節 少林寺拳法…………… (財)少林寺拳法連盟
第8節 なぎなた…………… (財)全日本なぎなた連盟
第9節 銃剣道…………… (社)全日本銃剣道連盟

第4章 組織・研究機関

第1節 日本武道協議会……………
第2節 全国都道府県立武道館協議会……………
第3節 日本武道学会……………
第4節 日本古武道協会……………
第5節 武道学科等設置大学 ① 国際武道大学 ② 国士館大学
③ 東海大学 ④ 日本体育大学 ⑤ 鹿屋体育大学 ⑥ 中京大学
⑦ 天理大学 ⑧ 筑波大学

第5章 資料編

第1節 役員名簿・組織図……………
第2節 日本武道協議会武道功労者一覧……………
第3節 全日本選手権大会優勝者一覧……………
第4節 年表「武道・近代百四十年の歩み」中村民雄 福島大学教授
第5節 学校体育における武道の変遷 本村清人 東京女子体育大学教授
第6節 武道主要参考図書……………

(現職・法人名は刊行時)

編集・発行 日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



今、なぜ武道か
—文化と伝統を問う—

福島大学教授
中村 民雄 著
(四六判・上製・370頁)



BUDŌ:
THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編
翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット
(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道
子ども心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー
菅野 純 著
(四六判・上製・410頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者
田谷 将俊 著
(四六判・上製・376頁)

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化!
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。



漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

マンガ・武道のすすめ



相撲は4名の先生方を紹介

武道各種目の概要を見開きで解説

塔尾武夫 現代相撲かくあるべし 下村勝彦 静岡焼津 さかなの町のわんぱく力士
住吉和則 相撲好き遺伝子を守る! 安井和男 先輩部長が育てる侍力士

全日本空手道選手権大会

男子
組手

荒賀龍太郎が3年ぶりに日本一

女子組手は染谷香予が2連覇

形は世界王者の喜友名諒(男子)と清水希容(女子)が貫禄の優勝

内閣総理大臣杯第42回全日本空手道選手権大会(主催=全日本空手道連盟)は、12月6日、7日の両日、東京武道館(6日)と日本武道館(7日)で開かれた。

試合は、男女個人戦(組手・形)と男女団体戦(組手のみ)の6種目がトーナメント戦により競われ、空手道日本一を目指す選手たちの激しい闘いが繰りひろげられた。また、11月に行われた世界大会代表メンバーも多く出場。その活躍に注目が集まった。

個人戦、男子組手は荒賀龍太郎三段(京都)が3年ぶり3回目、女子は染谷香予三段(前年度優勝)が2年連続2回目の優勝に輝いた。男子形は喜友名諒^{きゆうなりよう}四段(前年度優勝)が3年連続3回目、女子は清水希容^{きよう}二段(前年度優勝)が2年連続2回目の栄冠を手にした。

団体戦、男子は京都が7連覇、女子は千葉が初優勝を果たした。



個人戦優勝者=左から清水、喜友名、染谷、荒賀

決勝、荒賀(左)対近藤
=荒賀が遠間からの上段
突きで攻める





空手道日本一を目指して集まった選手たち



準決勝、荒賀（左）対谷＝荒賀の上段突きが谷の顔面をとらえる



準決勝、近藤（左）対国吉＝近藤の上段突きが決まる

前年度優勝者と、各都道府県、実業団、学連、高体連の代表が出場した。試合は男子が3分（決勝4分）、女子が2分（決勝4分）、8ポイント差がついた時点で勝敗を決した。時間内にその差がつかない場合は、得点の多い者を勝者とし、同点の場合は5名の審判による旗判定が行われた。

■男子（54名）

前年度優勝の香川幸允ひでよしは、初戦（2回戦）で宮本大希（福岡）を降し、3回戦は不戦勝、準々決勝で3年前に3位の近藤大地（兵庫）と対戦。香川は序盤からリードを奪うも終了間際に近藤の後ろ回し蹴りをもらって、逆転負けを喫した。

75kg級現役世界王者の谷竜一（実業団）は、初戦（2回戦）で遠山将平（長崎）を判定で、3回戦で葭矢雄太（大阪）を1-0で降す。準々決勝は不戦勝。5年ぶりの準決勝進出となった。

過去2回優勝の荒賀龍太郎（京都）は、3回戦でアジア大会アンダー21優勝の西村拳（宮崎）と対戦。荒賀は西村の技を冷静に見切って突き技を重ね、5-1で勝利した。続く準



3回戦、荒賀（右）対西村＝突きに跳ぶ荒賀

決勝も、池内義政（学連）に上段蹴りを決めるなどして、6-0で一蹴した。

4強は、荒賀、谷、近藤、国吉眞太郎（沖縄）。

▽準決勝

荒賀龍太郎 1-0 谷 竜一

子供の頃から同じ道場で切磋琢磨してきた両者。5年前には決勝で対戦している（結果は荒賀が8-0で勝利）。試合が始まると、互いに小刻みなステップワークから中段突きを狙う。間合いが詰まったところ、谷がワンツーで攻める。荒賀はその2つをきっちり落とし受け、右上段逆突きを決めた。その後、ポイントは動かず、荒賀が決勝に進んだ。

◆優勝者インタビュー

進化を続けるチャンピオン

男子組手優勝Ⅱ荒賀龍太郎選手（京都）

奪われたポイントとは3回戦で西

村に許した有効1つのみ。準決勝の谷戦以外は、圧倒的な強さをみせた。そんな荒賀も11月の世界選手権では2位と涙を飲んだ。

「優勝できなくて気持ちが悪く切れました」

周囲からの応援もあり、全日本での勝利を自分に誓った。

「もう、こんな悔しい思いはしたくない」

その思いが今回の優勝に繋がった。

以前に比べて、投げ技が増えたようにみえるが、あくまで突き蹴りと同様の一つの選択肢から生ま



れただけという。

「全ての技が出来るオールマイティな選手を目指しています。海外の選手の動きを参考にすることもあります。いろいろ試しながら、自分に合った技として取り入れるよう、毎日練習しています」

強くなるための努力は尽きることはない。

「進化し続けないと、勝てないと考えています。これからも国際大会などに多く出場し、自分の足りないところを肌で感じたいです」

全日本では、感極まって涙する優勝者が多い。しかし、荒賀は違う。涙を流す場所はここではないと言わなければ、自分の考えを淡々と語る。

おそらく他の日本人選手とは違う次元にいるのだろう。今後、どのような「進化」を続けるのか、そして世界の頂点に立つ日がくるのか、注目していきたい。

近藤大地 1-0 国吉真太郎

互いに左構え。間合いを計りながらの慎重な展開が続く。試合終盤に、国吉が左刻み突きで攻めると、近藤は拳一個分、体を後ろに反らして躲し、右上段逆突きを決めた。近藤はこのポイントを守りきり、初の決勝の舞台へ。

▽決勝

荒賀龍太郎 4-0 近藤大地

関西勢同士の対戦。試合開始から荒賀は果敢に間合いを詰めていく。近藤は下がりながら試合場を広く使つて機を窺う。しばらくして、荒賀は逆突きを出した勢いで近藤に接近し、倒してから突きを決めて先制する。その後も近藤は防戦を強いられ、場外の反則をとられる場面も。終盤には中段の突き合いで荒賀にポイントが加算され、そのまま時間となった。荒賀が3年ぶり3回目の優勝を遂げた。

◎準優勝Ⅱ近藤大地選手（兵庫）

「準々決勝で決めた後ろ回し蹴りは、狙っていました。憧れの香川先輩に勝って嬉しかったです。決勝で

は、自分にポイントが入ったと勘違いして、気を抜いてしまったところを投げられました。よくやったと思いますが、悔しいです」

■女子（54名）

元世界女王の染谷香予（前年度優勝）は順当に勝ち進み、準々決勝ではベテラン本間絵美子（実業団）を相手に2-0で勝利した。

2年ぶりの優勝を狙う小林実希（東京）は、3回戦で多田野彩香（千葉）を2-0、準々決勝で石原佑夏（兵庫）を判定の末に降した。

世界大会3位の植草歩（学連）は、初戦（2回戦）で実業団優勝の月井隼南（大阪）に逆突きを決め、1-0で勝利。3回戦は山田沙羅（東京）を判定で退けた。準々決勝は帝京大学の後輩・染谷真有美（茨城）に判定3-2の僅差で辛勝した。

準決勝進出者は、染谷（香）、小林、植草、前回準優勝の東世菜。

▽準決勝

染谷香予 2-2 小林実希

（判定4-1）

優勝経験のある実力者同士の対戦。先制したのは染谷。小林の逆突



決勝、染谷（奥）対植草＝突きの連続技で攻める染谷



準決勝、染谷（右）対小林＝染谷の上段突きが決まる



準決勝、植草（右）対東＝植草が中段突きで攻める

きに、下がりながらカウンターの上段突きを決めた。さらに染谷は、小林の蹴りに上段刻み突きを合わせてリードを広げる。その後、小林も負けじと中段突きを2つ決め、同点のまま時間。判定となり、染谷が勝利。4年連続で決勝に進んだ。

植草 歩 0-0 東 世菜
（判定5-0）
植草は序盤から突き技で東を攻める。長身の東はそれを捌きながら返し技を狙うも、勢い余って場外の反則を受ける。植草が中段、東が上段を突き合う展開が続く。結局、最後

までポイントとなる技は出ず、判定は全て植草に上がった。大学の先輩・染谷との頂上決戦へ。

▽決勝

染谷香予 1-1 植草 歩
（判定5-0）

序盤から激しい突き技の応酬となる。開始1分、中段を突き合うと、染谷にポイントが与えられる。初優勝を狙う植草は、上段逆突きの連続技で有効を奪い、1-1で並ぶ。染谷がワンツー、植草がそれを捌いて投げを狙う。一進一退の攻防が続くも、そのまま時間となった。判定では審判全員が染谷を支持。2年連続2回目の優勝が成し遂げられた。

◎優勝Ⅱ染谷香予選手（前年度優勝）

「準決勝で対戦した小林選手は、同じ帝京大学出身で、目標にできた先輩です。その先輩との試合の中でチャンスをつかめたのも、自分の中で大きかったです。」

連覇を狙った世界大会では、3回戦敗退という不甲斐ない成績でした。でも、あきらめなければ大丈夫だと自分に言い聞かせました。それがよかったのだと思います」

◎準優勝Ⅱ植草歩選手（学連）

「なぜ負けたのか、今はわかりません。正直言って負けを認めたくありません。出場のたびに順位も上がっています。一つ一つ進んでいくしかありません。来年は優勝したいです」

《形》

前年度優勝者、各地区の代表、全空連推薦者が出場し、5名の審判による旗判定で勝敗を決した。

■男子（15名）

世界選手権での優勝が記憶に新しい喜友名諒（前年度優勝）は、初戦（2回戦）で久保弘樹（近畿）を5-0で退ける。続く準決勝では過去2回優勝経験のある大木格（推薦）と対戦。スーパーリンペイを演武した喜友名が、大木のチャタンヤラ・クーサンクーを3-2で降した。

一方のブロックでは、新馬場一世（実業団）が準決勝でスーパーリンペイを演武し、杉野拓海（推薦）の雲手に5-0で勝利した。

決勝は前回と同じ顔合わせ。先攻の喜友名はアーナンを演武。安定感のある下半身から、力強い技の数々を繰り出した。後攻の新馬場は、手

足の動きを大きく使ったチャタンヤラ・クーサンクーで勝負した。判定は赤に旗が5本揃い、喜友名の3年連続3回目の優勝が決まった。

◎優勝Ⅱ喜友名詠選手(前年度優勝)

「初戦は勝ちを意識しすぎて固くなつてしまいましたが、決勝はリラック

■女子(16名)

前年度優勝の清水希容は、喜友名と同じく現役の世界選手権者。初戦

から危なげなく勝利し、準決勝でも柏岡鈴香(近畿)とのスーパーリネンペイ対決を5-0で制した。

準優勝2回と、あと一步のところ

で頂上に手が届かない梶川凜美(推薦)は、準決勝でスーパーリネンペイを演武し、時岡由佳(実業団)のチャタンヤラ・クーサンクーを3-2で退けた。

清水と梶川、再び決勝の舞台で相

見えた両者。演武の形も互いに前回

と同じチャタンヤラ・クーサンクー。

先攻の清水は、正確な運足から、鋭

い突き、蹴り、受けを放つ。一方の

梶川も、隙のない動きで演武をまとめた。結果は5-0で清水が勝利。2年連続2回目の栄冠を手にした。

◎優勝Ⅱ清水希容選手(前年度優勝)

「世界大会が終わって、この大会まで気が抜けなかつたです。日本で一番大きな舞台なので、気持ちが入りました。これからもしっかりと技を磨いていきます」

◎最年少16歳Ⅱ宇海水稀選手(高体連)

「年の離れた先輩と勝負でき、いい経験になりました。将来は

清水先輩のように世界で活躍できる選手を目指します。空手道がオリンピック種目になったら是非出場して優勝したいです」

◎組手と形に出場Ⅱ

大野ひかる選手(学連)



「組手と形を練習するのはいつものことです。両方できる選手

がいなくなつてはだめだと思いません。私のように体が小さくても頑張れるということを、これからの選手たちに知ってもらいたいです」



女子形優勝＝清水希容(チャタンヤラ・クーサンクー)



男子形優勝＝喜友名詠(アーナン)



女子形準優勝＝梶川凜美(チャタンヤラ・クーサンクー)



男子形準優勝＝新馬場一世(チャタンヤラ・クーサンクー)

《団体戦》

都道府県ごとに編成されたチームにより、点取り方式で争われた。

■男子（5人制・47チーム）

団体種目が始まって以来、優勝を続ける京都は、準決勝で兵庫と対戦。2―2で勝ち星が並ぶも、ポイント11―10で辛勝した。

前回準優勝の東京は、準決勝で大阪を2―0で退け、3年連続の決勝進出を決めた。

▽決勝

京都 2―0 東京

○荒賀龍太郎 8―0 末廣祥彦

○谷 竜一 6―1 佐々木秀也

釜口幸樹 1―1 飯村涼太

一瀬健太 1―1 飯作雄太郎

荒賀慎太郎 X 森田龍也

先鋒の京都・荒賀（龍）は、突きの連続技から間合いを詰めて、東京・末廣を倒し、突きを決める。荒賀は中段突き、再び倒してからの突き、上段裏回し蹴りで完勝した。

次鋒の京都・谷は、東京・佐々木の突きを躲し、カウンターの上段突きで3連続ポイント。さらに、谷は佐々木の攻めが切れたところを見逃さず、近間から上段蹴りを決めた。



男子団体決勝・次鋒戦Ⅱ京都・谷（左）が東京・佐々木を突きで攻める

佐々木もようやく上段逆突きでポイントを取るも、時すでに遅し。谷が6―1で勝利した。

続く中堅、副将戦は引き分け。この時点で京都が2―0となり、大将戦を待たずに7連覇が決まった。

◎優勝Ⅱ京都・古川孝監督

「決勝は、前半で一気に決めようと思いました。東京は香川幸允、渡邊大輔選手が出場しておらず、新しいチームで勝ち上がってきていましたね。彼らが出てきたら、どうなっていたかわからなかったです」

■女子（3人制・47チーム）

過去5回優勝し、2連覇中の東京は、初戦（2回戦）で大阪にポイント差で競り勝ち、続く宮城、群馬、岐阜との対戦を2―0で勝利した。

前回準優勝の千葉は、初戦（2回戦）で福井、3回戦で神奈川を、2―0で退けた。準々決勝は前回2位の兵庫を1―0、準決勝は茨城を2―0で降した。

▽決勝

千葉 2―0 東京

○植草 歩 1―0 小林実希

田口聡珠 0―0 山田沙羅

○多田野彩香 2―0 宮原美穂

女子団体決勝・大将戦Ⅱ千葉・多田野（右）が東京・宮原に中段蹴りを決める



先鋒戦、千葉・植草と東京・小林の対戦は、中段の突き合いを植草が制して有効。そのまま時間となり、植草が勝利した。

中堅戦は引き分け。大将戦は、千葉・多田野が遠間から中段蹴りを決める。なんとか取り返したい宮原は、猛攻をみせるもポイントにはならず、時間終了。

千葉が嬉しい初優勝に輝いた。

◎優勝Ⅱ千葉・多田野彩香選手

「植草先輩が先に勝ってくれたので、楽な気持ちで試合が出来ました。中段蹴りはよく練習しています。この重要な場面で決められてよかったです」

◎優勝Ⅱ千葉・加瀬龍志監督

「うちのエースは植草です。最後は植草をトップにして勝負しました。東京が小林選手を先鋒にもつてくるとは思いませんでした。

選手たちは、こっそり集まって稽古するなど、見ていないところでも頑張っていました」

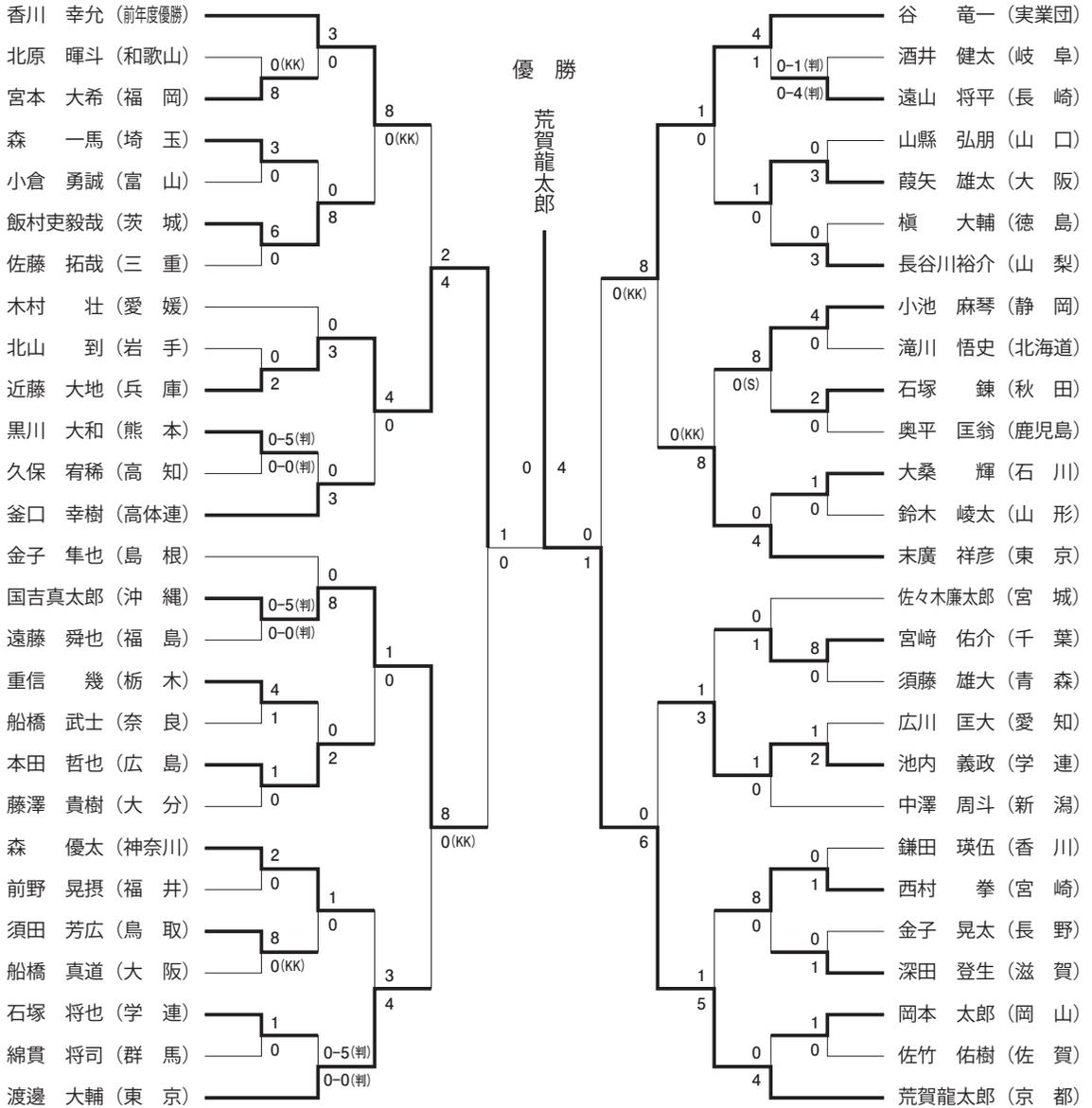


《団体戦大会結果》

■男子Ⅱ①京都②東京③兵庫、大阪

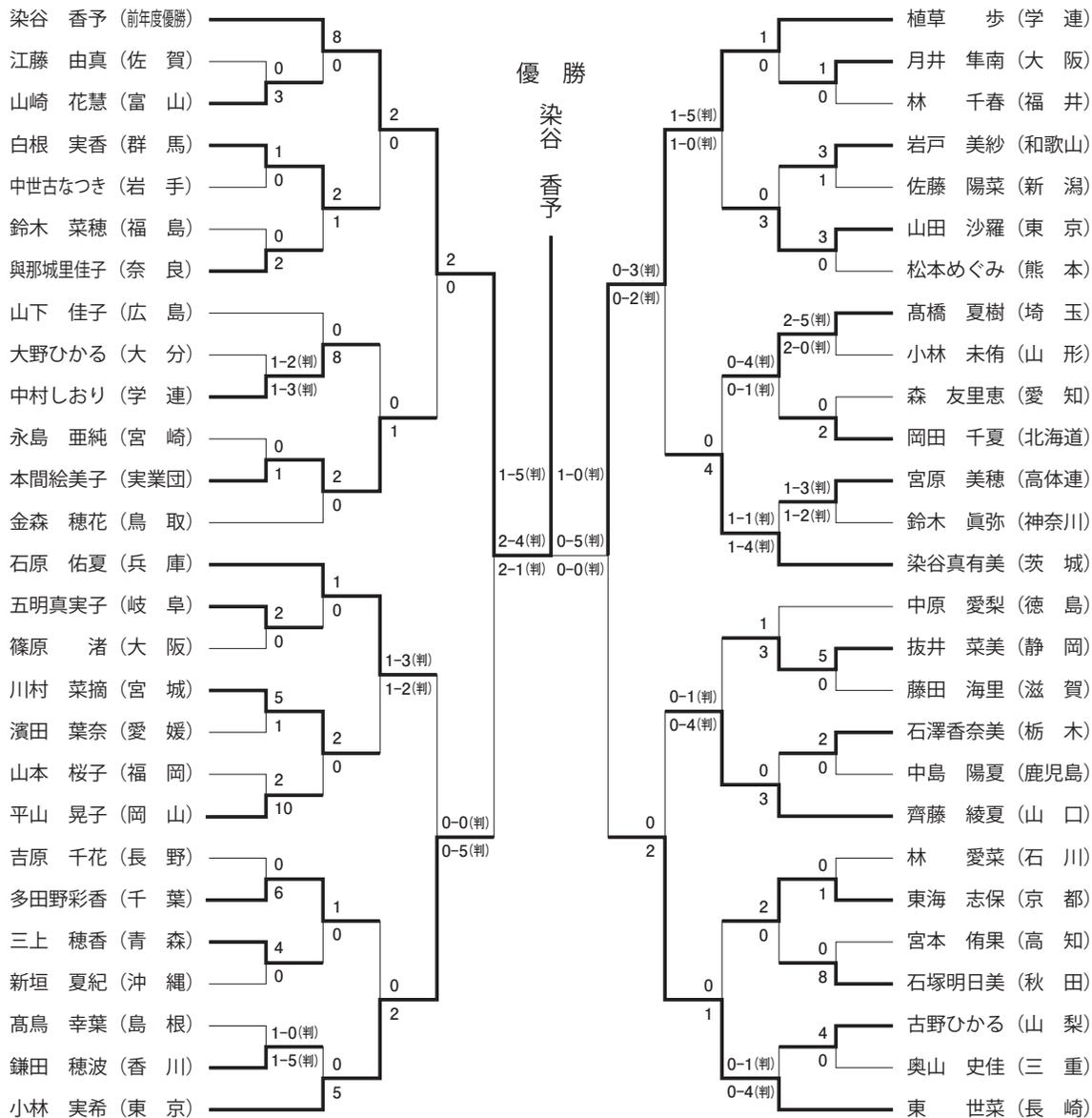
■女子Ⅱ①千葉②東京③岐阜、茨城

男子組手個人戦



- 【男子形個人戦結果】
- ▼一回戦
 - 5 久保弘樹 (近畿) セーパイ
 - 0 星川大地 (四国) セイエンチン
 - 0 小川大貴 (北信越) セーパイ
 - 5 木田郁也 (北海道) パッサイダイ
 - 2 在本幸司 (中国) カンクウダイ
 - 3 大木 格 (推薦) セイエンチン
 - 4 杉野拓海 (推薦) ジオン
 - 1 林田至史 (学連) カンクウダイ
 - 0 下村世連 (九州) セーパイ
 - 5 堀庭裕平 (高体連) セーパイ
 - 4 相馬昂翔 (東北) ジオン
 - 1 福永貴都 (東海) セーパイ
 - 0 中嶋俊文 (関東) パッサイダイ
 - 5 新馬場一世 (実業団) セーパイ
 - ▼二回戦
 - 5 喜友名諒 (前年度優勝) クルルンファ
 - 0 久保弘樹 クルルンファ
 - 0 木田郁也 ニーパイボ
 - 5 大木 格 ニーパイボ
 - 5 杉野拓海 エンピ
 - 0 堀庭裕平 クルルンファ
 - 0 相馬昂翔 エンピ
 - 5 新馬場一世 クルルンファ
 - ▼準決勝
 - 3 喜友名諒 スーパーリンペイ
 - 2 大木 格 チャタンヤラ・クーサンク
 - 0 杉野拓海 ウンスー
 - 5 新馬場一世 スーパーリンペイ
 - ▼決勝
 - 0 新馬場一世 チャタンヤラ・クーサンク
 - 5 喜友名諒 アーナン

女子組手個人戦



【女子形個人戦結果】

▼一回戦

5 清水希容 (前年度優勝) バツサイダイ

0 清和田雅美 (推薦) セーパイ

5 森岡実久 (四国) セーパイ

0 古川かれん (関東) セーパイ

0 森田うらら (九州) バツサイダイ

5 木村陽子 (推薦) セーパイ

3 柏岡鈴香 (近畿) セーパイ

2 大野ひかる (学連) セーパイ

5 時間由佳 (実業団) バツサイダイ

0 内海 愛 (中国) セーパイ

3 岩本衣美里 (北海道) セーパイ

2 宇海水稀 (高体連) セーパイ

1 田中美佐稀 (北信越) セーパイ

4 中村智枝子 (東海) バツサイダイ

0 川向七瀬 (東北) チントウ

5 梶川凜美 (推薦) バツサイダイ

▼二回戦

5 清水希容 ニーパイボ

0 森岡実久 クルルンファ

1 木村陽子 クルルンファ

4 柏岡鈴香 クルルンファ

5 時間由佳 ニーパイボ

0 岩本衣美里 クルルンファ

0 中村智枝子 ニーパイボ

5 梶川凜美 ニーパイボ

▼準決勝

5 清水希容 スーパーリンペイ

0 柏岡鈴香 スーパーリンペイ

2 時間由佳 チャタンヤラ・クーサンク1

3 梶川凜美 スーパーリンペイ

5 清水希容 チャタンヤラ・クーサンク1

0 梶川凜美 チャタンヤラ・クーサンク1

日本武道館の単行本

空手評論家
金城

裕
(きんじょう ひろし) 著

唐手から空手へ

題字 松永光日本武道館会長



(四六判・上製・四五四頁)

今の空手は、その源流である唐手からての精神と伝統の技を忘れて成長してしまった。空手の将来に豊かな展望を持つためにも、唐手誕生の歴史を正しく認識する必要がある。

空手修業歴八十年。生涯を空手に捧げてきた著者が史料を繙きながら、唐手が誕生し、空手となった過程を辿る。武道研究者必携の一書。

〈目次〉

- 第一章 「唐手」とは、の問いに答える
- 第二章 中国拳法を巡って
- 第三章 琉球と中国の関係史
- 第四章 松村宗昆、「手」に息吹きを与える
- 第五章 首里手から唐手へ
- 第六章 「唐手」から「空手」へ
- 終章 空手の進むべき道

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)

日本の武道

日本武道館 編



一千数百年の歴史を有する武道の全容を一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実の巻末資料など、武道関係者必携の書。

(B5判・上製・箱入・526頁)

我が空手人生

金澤弘和 著



国際松濤館空手道連盟館長 金澤弘和 著
父母の教え、「からて」との出合い、厳しい修行、組織の結成、そして独自の空手理論構築まで、世界に空手を普及した男の記録。

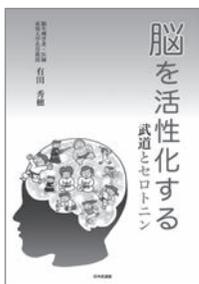
(四六判・上製・372頁)

脳を活性化する

武道とセロトニン

東邦大学名誉教授

有田秀穂 著

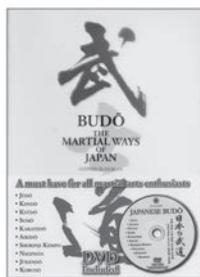


人間の心身を安定させるセロトニン——。その研究の第一人者が、誰もがができる脳を活性化させる方法をわかりやすく解説。

(A5判・並製・346頁)

BUDO: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編



武道のすべてを網羅した『日本の武道』の英語版。海外武道修業者におすすめの書。

(B5判・上製・336頁・DVD付)

マンガ・武道のすすめ

田代しんたろう 著



漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著
武道の良さ、すばらしさを、わかりやすく描く。大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。空手道は5話を掲載。

(B5判・並製・236頁)

大先輩に聞く

田谷将俊 著

月刊「武道」記者



各武道の先達三十名に直接取材。武道との出会いから修行時代、そして現在を語る。空手道では江里口栄一、辻川禎親、金城裕の3氏を収録。

(四六判・上製・376頁)



決勝＝遠間から打ち込む田中（千）（右）対吉井

皇后盃第59回全日本なぎなた選手権大会

田中千景錬士（京都）

4年ぶり2回目の優勝

皇后盃第59回全日本なぎなた選手権大会（主催Ⅱ全日本なぎなた連盟）は、12月7日、愛知県武道館で開催された。全国各地区から選ばれた54選手によって、なぎなた日本一の座を懸けて争われた。

決勝で田中千景錬士（京都）が吉井和代錬士（東京）を降し、4年ぶり2回目の優勝に輝いた。3位には前回優勝の安喰愛四段（島根）が入賞した。

開会式の後、全日本なぎなたの形（打・谷本良子、仕・福岡知子）、直心影流薙刀術（打太刀・梶山武子、仕太刀・辻村光子）、天道流薙刀術（受太刀・砂川碧、仕太刀・木村恭子）の演武が披露された。また、試合終了後には、参加者全員による、しかけ応じが行われた。

試合は5分間3本勝負のトーナメント戦で争われた。時間内に勝敗がつかない場合は、判定とした（決勝は3分間1回の延長あり）。

◇ 7回の最多優勝記録を持つ池見敬子（愛媛）は、2回戦で竹村紀子（秋



準決勝＝吉井（左）対田中（あ）



準決勝＝田中（千）（右）対安喰



3位決定戦＝安喰（奥）対田中（あ）

田)に判定負。第51回大会優勝の佐藤あき子(熊本)は2回戦で田中千景(京都)に判定負となり、ベテラン勢が姿を消した。

準決勝には、田中千景(京都)、4連覇の懸かる安喰愛(島根)、前回3位の吉井和代(東京)、初優勝を目指す田中あゆみ(三重)の4人が進出した。

◆準決勝

田中千景 スー 安喰 愛

始めと同時にスネを打ち込む安喰。一方の田中は、中段の構えから打突の機会を慎重に狙う。安喰は技をしかけ打ち込むが、打突が軽いか一本が決まらない。終盤、安喰が

メンを打ち、中途半端な位置で居着いてしまったところを、田中は、すかさず引きながらスネを打ち一本を先取。その後も、お互いに攻め合ったが時間となり、田中が一本勝を収めた。

吉井和代 判ー 田中あゆみ

吉井の切先が効いているのか、田中は、吉井のなぎなたを払ってから打ちに出る。手数が多いのは田中だが、一本を奪えない。吉井は落ち着いた中段の構えから技を出すが決めきれない。両者一本が決まらないまま時間終了となった。判定の結果、吉井の決勝進出が決まった。

◆3位決定戦

安喰 愛 判ー 田中あゆみ

連続技で攻める田中に対し、安喰は遠間からメンやツキで攻める。中盤、田中がメンに出ようとしたところを、安喰がスネを打突したが、一本にはならず、勝負は判定となった。結果は、安喰に旗が3本上がり、3位が決定した。

▽3位Ⅱ安喰愛四段(島根)

「連覇に向けて稽古してきたことは

間違っていないか」と思います。今回は3位という結果になりましたが、よかったです。来年は県内の予選を勝ち抜かなければ、全日本選手権に出場できませんが、もし出場することができたなら、皇后盃を持って帰りたいです」

◆決勝

田中千景 判ー 吉井和代

試合開始後、互いに中段の構えから打間を探り合い、すぐには打ち合わない。しっかりと構え合う錬士同士の落ち着いた試合運びだが、打突の機会とみれば、二本、三本と淀みなく連続技を打ち込む。吉井が遠間から近間に入り打突しようとした起こりを、田中は切先で抑え、打たせない。巧みに技を繰り出す両者だが一本が決まらず延長へ。田中は左中段の構えから、側面を打ち、吉井は右中段の構えから、もちかえてスネを打突したが相打ちとなる。延長戦でも両者は攻め合い、技を出し合うも時間内では決着がつかず旗判定となる。攻めの姿勢が吉井より上回った田中に旗が3本揃って上がり、4年ぶり2回目の優勝を果たした。

◎優勝Ⅱ田中千景錬士（京都）

今大会へはどのような気持ちで臨んだのかを聞いた。

「選手として出場させてもらえたので、自分の力を精一杯出せる大会にしたいと思いました。周りの人の協力を得ながら稽古に励み、この日を迎えることができたので、みんなの気持ちで背負って試合に臨みたいと思いました。また、今できることは、

どれぐらいなのか、楽しみなながら精一杯やりたいと思いました」

優勝できた理由については、わからないと前置きしたうえで、「強い気持ちや切先の攻めなど自分が大事にしているなぎなたの形を、最後までできたことが、判定として認めてもらえたのかも」と試合を振り返った。

自分が大事にしているなぎなたの姿は「ちゃんと間合いが取れ、相手の呼吸を読め、相手としっかり一対一の試合ができるなぎなたを理想としています」。そんな理想とするなぎなたが、決勝戦で展開できたのは、吉井選手も同じようなタイプのなぎなた選手だからだそう。

決勝戦の開始直後、しばらく打ちに出なかったのは、「相手がどのよう攻めてくるのかを探っていました。そのような瞬間が楽しいですね」。なぎなたの魅力は「長い間合いの中で、相手の心の動きや駆け引きが、どれだけ展開できるのが魅力です」と楽しそうに語る姿が印象的だった。

今後については、「来年の大会までには体力を付け、頑張ります」と和やかに抱負を語った。



左から安喰愛四段、田中千景錬士、吉井和代錬士

▽準優勝Ⅱ吉井和代錬士（東京）

「試合の勝ち負けではなく、決勝の舞台に立てたことが嬉しいです。決勝では、攻めきれなかったところもありましたが、会場の雰囲気にもれなかつたことはよかったと思います。昨年は3位、今年は準優勝なので、来年は優勝できるよう頑張ります」



決勝開始直後じっくり構え合う田中（千）（右）対吉井

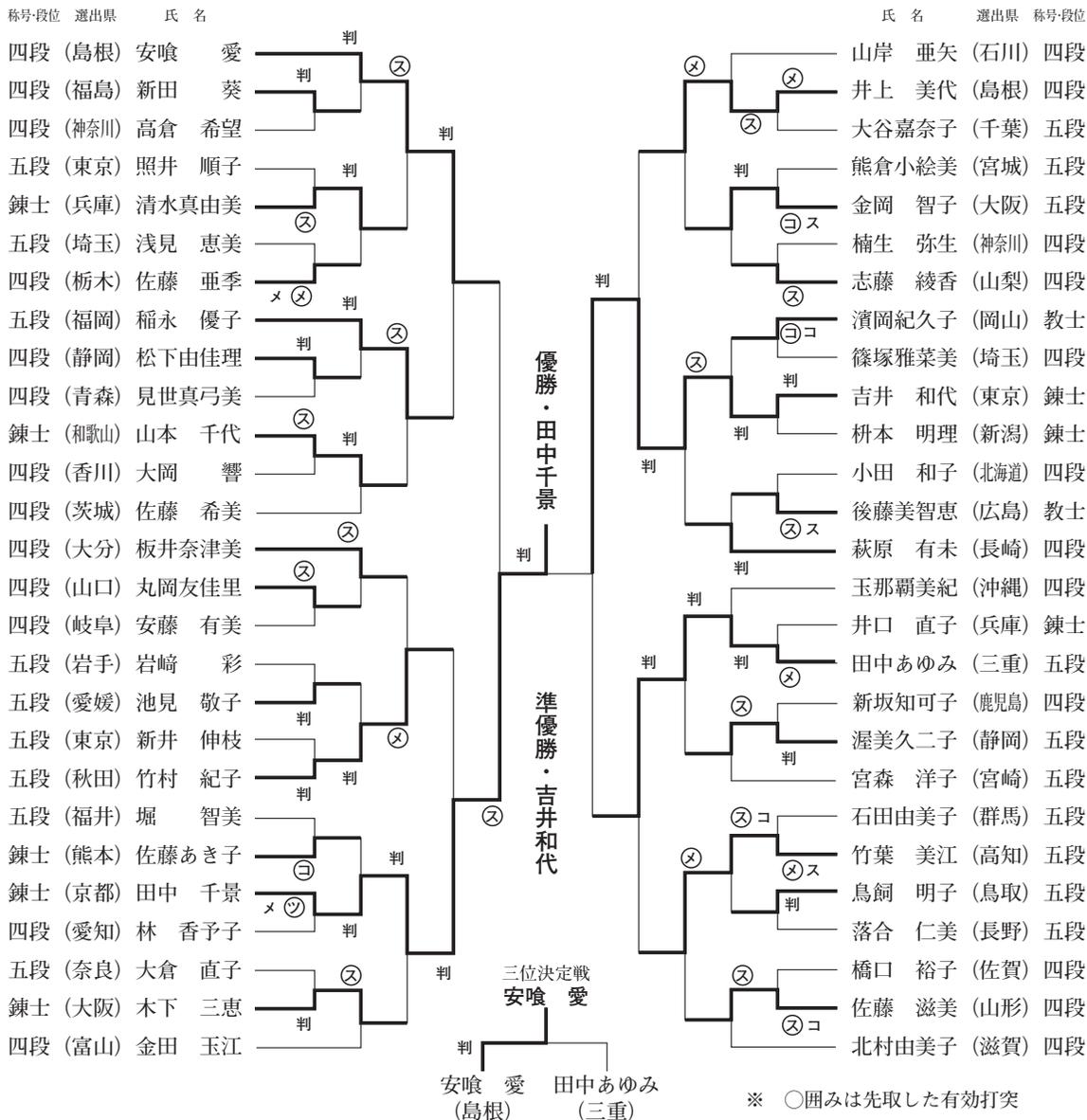


直心影流薙刀術



全日本なぎなたの形

皇后盃 第59回全日本なぎなた選手権大会



《公開演技》参加者全員によるしかけ応じ



天道流薙刀術



決勝＝田中（右）対増田

田中康介五段（三重）が 2年連続5回目の優勝

全日本男子なぎなた選手権大会



準決勝＝田中（左）対大川



準決勝＝増田（左）対松村

第14回全日本男子なぎなた選手権大会（主催Ⅱ全日本なぎなた連盟）は、12月6日、愛知県武道館で開催された。

大会には、全国から46名の選手が出場。決勝は、田中康介五段（三重）が増田道仁二段（兵庫）を降し、2年連続5回目の優勝を果たした。3位は松村俊祐三段（福島）が入賞した。

大会前には、公開競技として演武競技が行われ、佐橋五月・加藤大貴（愛知）が優勝した。試合競技終了後には公開演武として、参加者全員による団体基本が行われた。

試合は4分間3本勝負のトーナメント戦で争われた。時間内に勝敗がつかない場合は、判定とした（決勝は2分間1回の延長あり）。

準決勝には前回優勝の田中康介（三重）、大川宗則（茨城）、増田道仁（兵庫）、松村俊祐（福島）が勝ち上がった。

準決勝第一試合、田中対大川は、田中が連続技を交えて攻め続け、判定で勝利。第二試合は増田対松村。一進一退の攻防が続くが、判定で増田が勝ち、決勝へ進出した。

◇決勝

田中康介 判一 増田道仁

開始直後、田中は鋭いコテを打ち込み、攻める。対する増田はスネ、メンを打ち返す。遠間から積極的に出す増田に対し、田中は冷静に増田の打突の起りを出ばな技で攻めた。時間内には決着がつかず延長戦へ。延長に入っても増田の打突、足捌きの速さは落ちない。増田は田中の打突部位を捉えた技もあつたが決めきれない。田中は巧みな、なぎなた捌きで増田を攻め続けた。延長でも両者に旗は上がりず判定に。結



決勝=増田（左）のスネをかわしメンを打つ田中

果は赤旗3本が上がり、田中の2年連続5回目の優勝が決まった。

◎優勝Ⅱ田中康介五段（三重）

「今回の大会では、基本を意識して試合に臨んだので、連覇という意識はありませんでした。判定の度には、負けた負けたと思っていました。こんなにしんどい試合は初めてです。全ての試合が勉強になりました。特に、決勝で対戦した20歳の増田君の堂々とした戦い方には驚きました。選手としても指導者としてもできることを、一つひとつ頑張っていました」



左から松村俊祐三段、田中康介五段、増田道仁二段

いと思います」

▽準優勝Ⅱ増田道仁二段（兵庫）

「準優勝できたことはよかったです。悔しいです。決勝は父（準々決勝で田中康介選手に敗れる）と戦ったので残念でした。また来年頑張りたいと思います。準決勝では疲れを感じてしまったので、体力の強化と、決めきれぬ技を磨いていきたいです」

▽第3位Ⅱ松村俊祐三段（福島）

「今年の3月まで奈良県の長谷寺に修行に行っていたので、なぎなたの稽古は2年間していません。4月か



3位決定戦=松村（左）対大川



演技競技優勝=佐橋五月（右）・加藤大貴（愛知）

ら再開した稽古では、初心に戻り稽古に取り組みました。武道は、『礼に始まり、礼に終わる』といわれますので、そのことを追究し、相手を敬う試合ができればよいと心掛け試合に臨みました」

【大会結果】

▽優勝Ⅱ田中康介（三重）

▽準優勝Ⅱ増田道仁（兵庫）

▽3位Ⅱ松村俊祐（福島）

◆演武競技

▽優勝Ⅱ佐橋五月・加藤大貴（愛知）

▽準優勝Ⅱ中内脩人・田中康介（三重）

▽3位Ⅱ松村俊祐・田中厚（福島）

なぎなたという素晴らしい武道を
一人でも多くの人に伝えたい



戦前の薙刀術教員養成所に始まり、戦後の
苦難の復興期を経て、現在の隆盛に至るま
で、著者自身が歩んだなぎなたの道を振り
返りながら、なぎなたの素晴らしさを謳い
上げた会心作。なぎなた愛好者のみならず、
武道指導者必読の一書。

◇第1章多感な少女時代 ◇第2章薙刀術教員養成所
◇第3章卒業 ◇第4章なぎなた教師
◇第5章全日本なぎなた連盟結成 ◇第6章財団法人化
◇第7章体協加盟と国体参加 ◇第8章生涯続くなぎなたの道

私の歩んだ

なぎなたの道

元全日本なぎなた連盟顧問

徳永千代子 著

(四六判・上製・252頁)



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)

一千数百年の歴史を有する武道の全容を一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実の巻末資料など、武道関係者必携書。



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット
(B5判・上製・DVD付・336頁)

武道のすべてを網羅した『日本の武道』の英語版がついに刊行! 海外武道修業者・関係者におすすめしたい決定版。



武道

子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー
菅野 純 著
(四六判・上製・410頁)

臨床心理学の立場から、子どもを育む武道の可能性、教育力に迫る。子どもをより良く伸ばすための知恵と珠玉の言葉を満載。



贈る言葉

なぎなた範士からのメッセージ

月刊「武道」編集部 編
(四六判・上製・366頁)

全国各地のなぎなた範士25名が、後世のなぎなた人へ贈るメッセージ。近代なぎなたの史料ともなる各範士の歩みを綴った半生記集。



武道伝書を読む

天理大学教授
湯浅 晃 著
(四六判・上製・348頁)

『風姿花伝』、『兵法家伝書』、『五輪書』など、代表的な武道伝書をわかりやすく読み解き、読者のためになるメッセージを贈る。



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授
田代しんたろう 著
(B5判・並製・236頁)

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に直接インタビュー取材し、武道の良さ、素晴らしさをおもしろく、わかりやすく描く。



なぎなたに夢を馳せて

沖縄県なぎなた連盟会長
国際なぎなた連盟副会長
長濱 文子 著
(四六判・上製・356頁)

沖縄におけるなぎなた成長の道のりを、連盟会長として組織運営・人材育成に携わってきた著者が振り返る。



大先輩に聞く

月刊「武道」記者
田谷 将俊 著
(四六判・上製・376頁)

傘寿を超えた武道界の先達30名が贈る、後輩への熱きメッセージ。修行時代から現在までの足跡を辿る、後世に残す記録集。

柔道グラランドスラム東京

男子 66kg級
高校生・阿部一

一三三が金メダル



66kg級決勝「阿部」(左) 対ボラック。阿部が大外返で有効

柔道グラランドスラム東京は12月5日〜7日の3日間、東京・千駄ヶ谷の東京体育館で開催された。体重別で男女各7階級の試合が行われ、合計7階級で日本代表選手が優勝した。1日目には男子66kg級で高校生の阿部一三三が優勝し、大会を盛り上げた。

男子

■60kg級

日本からは志々目徹(了徳寺学園職)、大島優磨(国士舘大)、山本浩史(ALSOK)、木戸慎二(パーク24)が出場した。

木戸は3回戦でイブラエフ(カザフスタン)に敗れ、山本は4回戦でキム(韓国)に敗れた。志々目と大島はそれぞれ勝ち上がって準決勝で対戦。志々目が体落で有効を奪って大島に優勢勝した。

決勝に進んだ志々目は、キムと対戦した。志々目は中盤にかけて指導を3つ重ねる。残り30秒でキムも指導を2つ取られるが、キムが逃げ切

り、志々目は準優勝。

■66kg級

なお、大島と敗者復活戦に勝った山本が3位決定戦で戦い、大島が指導の優勢勝で3位入賞を決めた。

阿部一三三(神港学園神港高)、高市賢悟(東海大)、海老沼匡(パーク24)、高上智史(旭化成)が日本代表として出場。

高上は2回戦でボラック(イスラエル)に、高市は4回戦でプリヤエフ(ロシア)にそれぞれ一本負け。高校生の阿部は4回戦、世界選手権3位のザンタラヤ(ウクライナ)を破り、準決勝は、ここまで順当に勝



73kg級決勝Ⅱ秋本（左）対大野。秋本が一本背負投で有効を奪う

ち上がってきた世界王者・海老沼と対戦することとなった。まずは海老沼が阿部の腰車を返して有効を奪う

が、終盤、阿部が大内刈で技有りを獲得して逆転し、阿部が優勢勝した。

決勝は阿部対ボラック。阿部はボラックの大外刈を返して有効を奪う。最後まで積極的に攻め続けた阿部が、有効ポイントを守りぬいて優勢勝を決めた。

また、敗者復活の高市が、3位決

定戦で海老沼に横四方固で一本勝ちして3位入賞した。

■73kg級

日本代表は秋本啓之（了徳寺学園職）、大野将平（旭化成）、西山雄希（了徳寺学園職）、中村剛教（大阪府警）の4人。

欠場の中矢力（ALSOK）に代わって出場した中村は2回戦でナールティ（ガーナ）に、西山は4回戦で

オルジョフ（アゼルバイジャン）に敗れた。秋本は4回戦でランキング3位のムキ（イスラエル）を、準決勝でオルジョフを破って決勝へ。また、大野は、ランキング1位のエルモント（オランダ）らを降して勝ち進み、決勝は日本人対決となった。

決勝終盤、秋本の一本背負投に大野が肩を着き、有効となる。大野はポイントを取ることができず、秋本の優勢勝が決まった。

◎66kg級優勝Ⅱ阿部一二三選手（神港学園神港高）

組手や気持ちの焦りが課題でしたが、克服できたように思います。自分らしい柔道ができました。今日は失うものが何もなく、プレッシャーを感じずに気持ちの面でも落ち着いています。

海老沼選手との対戦では、世界チャンピオンの強さを経験できたい

いと思って臨みました。前半、有効を取られ、このままじゃ勝てないと思ひ、後半は思い切つて前に出て攻めた結果、逆転できました。

2020年の東京五輪を目指していましたが、この大会で優勝できて、

リオ五輪も近づいたような気がします。今日の優勝がまだまだと言われませんが、これからもっと練習を積んで、日本人にも外国人にも負けない選手になりたいです。

◎73kg級優勝Ⅱ秋本啓之選手（了徳寺学園職）

自分の持ち味である、粘り強い柔道ができたと思います。ここ数年、



後輩たちに先を越されていたので、まだ自分があるぞということを示せたのではないかと思います。1年の最後を勝ちで締めることができて、良い年を迎えられそうです。

勝ち続けることが今の自分には大事なことです。崖っぷちだという状況は変わらないので、食らいついて、このチャンスをものにしていきたいと思ひます。

■81kg級

永瀬貴規（筑波大、丸山剛毅（天理大）、渡邊勇人（東海大）、長島啓太（日本中央競馬会）の4人が日本代表として出場した。

渡邊は2回戦、元73kg級世界王者のワン（韓国）に片羽絞で一本勝するが、3回戦でペナルベル（ブラジル）に敗れた。長島もポティエ（ベルギー）に敗れ3回戦で姿を消した。丸山は4回戦、世界王者であるチリキシビリ（グルジア）と戦い、掬投で一本負して敗退。一方、丸山と反対の山を勝ち上がった永瀬は、準決勝でチリキシビリと対戦することになった。永瀬は果敢に攻めて小外掛で一本を勝ち取った。

永瀬の決勝の相手は、トマ（アラブ首長国連邦）。両者技が出ず、指導を2つずつ取られて5分が終了。延長でトマにさらに指導がついて、永瀬が優勢勝した。

丸山は敗者復活で3位決定戦に進むも、ヴィチェルツァク（ドイツ）に敗れた。

■90kg級

日本代表は西山大希（新日鐵住



81kg級決勝=永瀬（右）対トマ

金）、ベイカー茉秋（東海大）、長澤憲大（東海大）。出場予定だった吉田優也（旭化成）は欠場した。

ベイカーは4回戦に進むも、クアク（韓国）に敗れた。長澤、西山の2人は準決勝に勝ち進む。長澤はクアクと対戦するが、指導が重なりクアクが優勢勝。西山はイデイル（フランス）から技有を奪って決勝進出を決めた。

決勝は西山対クアク。西山が大内刈で攻めると、クアクはそれを透かして背負投で有効を奪った。西山はポイントを取ることができないまま終了となり、準優勝にとどまった。

なお、ベイカーが敗者復活戦で勝ち、3位決定戦でイデイルを破って入賞。長澤は3位決定戦、キム（韓

国）に敗れた。

■100kg級

日本からは高木海帆（日本中央競馬会）、羽賀龍之介（旭化成）、後藤隆太郎（慶應義塾大）、ウルフ・アロン（東海大）が出場した。ウルフはレイズ（カナダ）に敗れて1回戦敗退。2回戦では、羽賀がランキング2位のマレ（フランス）に、後藤が同5位のグロル（オランダ）に降され、早くも残る日本代表は高木のみとなる。

しかし、高木も3回戦にパチュック（スウェーデン）に巴投で有効を奪われて負け、敗者復活戦でもコヘア（ブラジル）に敗れた。

なお、決勝ではチョ（韓国）がマレを破って優勝を手にした。

■100kg超級

岩尾敬太（京葉ガス）、王子谷剛志（東海大）、七戸龍（九州電力）、上川大樹（京葉ガス）が日本代表として出場した。

岩尾は3回戦、マチアシビリ（ブルジア）に一本負。上川は同じく3回戦で、世界選手権3位のサイドフ

（ロシア）に指導4で反則負した。王子谷、七戸は準決勝に進んだが、王子谷はマチアシビリに指導3で敗れ、七戸はサイドフに開始間もなくの腕挫十字固で一本負した。

岩尾、上川はともに敗者復活戦で勝ち、よって3位決定戦2試合が日本代表同士の戦いとなった。岩尾対七戸の試合は、岩尾は隅落で有効を奪って優勢勝。王子谷と上川の対戦は、王子谷の払巻込が有効となって優勢勝した。

なお、決勝ではサイドフがマチアシビリを降して優勝した。

女子

■48kg級

日本代表は近藤亜美（三井住友海上）、浅見八瑠奈（コマツ）、渡名喜風南（帝京大）、森崎由理江（鹿屋体育大柔友会）の4人。

森崎はガブリエリ（フランス）に負けて1回戦敗退。渡名喜は2回戦でメネセス（ブラジル）に敗れた。世界選手権優勝の近藤は、順当に決勝まで勝ち進む。浅見も決勝進出を決めて、決勝は近藤と浅見の日本代表同士の対戦となった。

試合開始11秒、近藤が巴投で有効を獲得。技の応酬が攻防が続くが、その後はポイントに繋がる技なく終了を迎え、近藤が優勢勝した。

■52kg級

日本からは橋本優貴（コマツ）、西田優香（了徳寺学園職）、志々目愛（帝京大）、中村美里（三井住友海上）が出場し、海外の強豪選手を

破って4人とも準決勝へ。

準決勝第1試合の橋本対中村は、開始わずか30秒、送襟締で橋本が中村に一本勝を決める。準決勝第2試合では、西田が志々目から小内刈で技有を奪って優勢勝。決勝で橋本と西田が対戦することとなった。

積極的に攻める橋本に対し、西田は技が出ず、中盤に指導を取られる。両者とも最後まで決め手のないまま

試合終了し、橋本の優勢勝となった。

準決勝で敗れた中村は3位決定戦でミランダ（ブラジル）に一本勝し、志々目はベルモイ（キューバ）に優勢勝して、日本代表が表彰台を独占することとなった。

■58kg級

松本薫（フォーリーフジャパン）、芳田司（コマツ）、山本杏（国士館大）、

宇高菜絵（コマツ）が日本代表として出場。

山本は4回戦で世界選手権2位のモンテイロ（ポルトガル）に敗れた。世界選手権優勝者の宇高も同じく4回戦で、シルバ（ブラジル）に降された。五輪金メダリスト・松本は難なく勝ち進み、対する山を勝ち上がってきた芳田と準決勝で対戦することとなった。芳田は果敢に前へ出て



（上）48kg級決勝＝近藤（手前）対浅見。近藤が巴投で有効を奪う

（左）52kg級決勝＝橋本（右）対西田



58kg級決勝＝松本（上）対モンテイロ。松本が横四方固で抑込む

いく。松本は冷静に芳田の技を捌きつつ攻める。しかし両者ポイントを奪うことはできず、芳田が序盤に受けた指導により松本が優勢勝した。

松本の決勝の対戦相手はモンテイロ。開始2分半、松本が一本背負投に出る。崩れたところを寝技に持ち込もうとするモンテイロを松本が返し、横四方固で抑込んで一本。

なお、芳田と敗者復活戦を勝ち上がった山本が3位を争い、芳田が優勢勝で3位入賞を決めた。

■63kg級

日本代表は西川真帆（龍谷大）、田代未来（コマツ）、平井希（自衛隊体育学校）、嶺井美穂（桐蔭学園高）の4名。

高校生の嶺井はプチエ（スペイン）に負けて1回戦敗退。2回戦では、世界選手権3位に入賞した田代がスラカトワ（ロシア）に、平井がファンエムデン（オランダ）にそれぞれ敗れた。西川は準決勝まで勝ち上がるも、指導1でジヴェンドウ（イタリヤ）に負け、3位決定戦へ。

3位決定戦で西川はスラカトワと対戦し、果敢に攻めた結果、指導3

による優勢勝で3位入賞を決めた。なお、決勝ではトレスステニア（スロベニア）がジヴェンドウを降して優勝した。

■70kg級

日本からは田知本遥（ALSOK）、安松春香（ALSOK）、新井千鶴（三井住友海上）が出場した。

新井は1回戦でプロコペンコ（ロシア）に敗れる。安松はコンウェイ（イギリス）に一本負で2回戦敗退。

世界選手権2位のヌンイラは、2回戦で同大会優勝のアルベール（コロンビア）に袈裟固で一本勝して雪辱を遂げたが、続く3回戦でディードリッヒ（ドイツ）に敗れた。田知本は、3回戦でランキング2位のファルカスコッホ（ドイツ）に、準決勝でズパンチッチ（カナダ）にそれぞれ一本勝で決勝へ進んだ。

決勝は田知本対エマヌ（フランス）。冷静な試合運びの田知本だったが、指導が2つ重なってエマヌの優勢勝となった。

ヌンイラは敗者復活により3位決定戦に出場したが、ズパンチッチに

一本負し、3位入賞を逃した。

■78kg級

佐藤瑠香（コマツ）、濱田尚里（自衛隊体育学校）、緒方亜香里（了徳寺学園職）、梅木真美（環太平洋大）が日本代表として出場した。

梅木はパク（韓国）に敗れて1回戦敗退。緒方は3回戦でロンドン五輪金メダリストのハリソン（アメリカ）に一本負。佐藤と濱田は準決勝に勝ち進む。佐藤は世界選手権3位のベレンセク（スロベニア）に大内刈を決めて決勝進出を決め、濱田はハリソンの袈裟固に敗れた。

決勝は佐藤対ハリソンの対戦となる。ハリソンは開始30秒で払腰による技有を奪う。佐藤はポイントを獲得できずに試合は終了し、ハリソンの優勢勝となった。

また、濱田が3位決定戦でラミレス（ポルトガル）を大外刈で降して3位入賞を決めた。緒方も敗者復活戦で勝って3位決定戦に進んだが、ベレンセクに敗れた。

日本代表は稲森奈見（三井住友海上）

■78kg超級

日本代表は稲森奈見（三井住友海上）



上）、朝比奈沙羅（渋谷教育学園渋谷高）、田知本愛（ALSOK）、山部佳苗（ミキハウス）の4名。

稲森は2回戦で世界女王のオルテイス（キューバ）を優勢勝で破って準決勝進出を決める。残る3人も勝ち上がり、準決勝は2試合とも日本代表同士の試合となった。

稲森対山部では、稲森が払巻込で有効を奪い、横四方固に抑え込んで、稲森が決勝へ。一方の朝比奈と田知本の試合は、延長戦で田知本が指導を取られて朝比奈の優勢勝となる。

決勝では稲森と朝比奈の激しい攻防が続く。残り1分、稲森が大内刈を掛ける。朝比奈は堪えようとするが、襟と袖で体を制御されて背中を着き、一本。稲森が優勝を手にした。

田知本は3位決定戦でオルテイスと戦い、指導4による反則負で3位入賞を逃す。山部は棄権した。



78kg超級決勝＝稲森（右）対朝比奈。稲森が大内刈で一本



◎78kg超級Ⅱ稲森奈見選手（三井住友海上）
 トーナメント表を見て、厳しい戦いになると思っていたので、そこを勝ち上がったことは自信になりました

た。特に世界チャンピオンや全日本チャンピオンとの対戦は、良いチャンスが来た、やるしかないと思って、挑戦できることがありがたいと思って臨みました。
 決勝での大内刈は練習を積んできた技なので、決まったときはスカッとした気分でした。
 体の大きな選手に一本とれる技を増やして、世界のトップクラスで戦える選手になりたいです。

【大会結果】

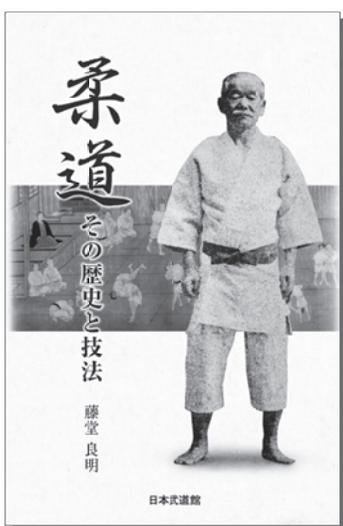
◆男子	優勝	2位	3位	日本選手
60 kg級	キム（韓国）	志々目徹（了徳寺学園）	大島優磨（国士舘大） イブラエフ（カザフスタン）	山本浩史（ALSOK）=5位 木戸慎二（パーク24）=3回戦敗退
66 kg級	阿部一二三（神港学園神港高）	ボラック（イスラエル）	ブリャエフ（ロシア） 高市賢悟（東海大）	海老沼匡（パーク24）=5位 高上智史（旭化成）=2回戦敗退
73 kg級	秋本啓之（了徳寺学園）	大野将平（旭化成）	アン（韓国） ウングヴァリ（ハンガリー）	西山雄希（了徳寺学園）=7位 中村剛教（大阪府警）=2回戦敗退
81 kg級	永瀬貴規（筑波大）	トマ（アラブ首長国連邦）	チリキシビリ（グルジア） ヴィチェルツァク（ドイツ）	丸山剛毅（天理大）=5位 渡邊勇人（東海大）=3回戦敗退 長島啓太（JRA）=3回戦敗退
90 kg級	クァク（韓国）	西山大希（新日鐵住金）	ベイカー・茉秋（東海大） キム（韓国）	長澤憲大（東海大）=5位
100 kg級	チョ（韓国）	マレ（フランス）	グロル（オランダ） プロシェンゴ（ウクライナ）	高木海帆（JRA）=7位 羽賀龍之介（旭化成）=2回戦敗退 後藤隆太郎（慶應義塾大）=2回戦敗退 ウルフ・アロン（東海大）=1回戦敗退
100 kg超級	サイドフ（ロシア）	マティアシビリ（グルジア）	岩尾敬太（京葉ガス） 王子谷剛志（東海大）	七戸 龍（九州電力）=5位 上川大樹（京葉ガス）=5位
◆女子	優勝	2位	3位	日本選手
48 kg級	近藤亜美（三井住友海上）	浅見八瑠奈（コマツ）	ジョン（韓国） パレート（アルジェリア）	渡名喜風南（帝京大）=2回戦敗退 森崎由理江（鹿屋体育大柔友会）=1回戦敗退
52 kg級	橋本優貴（コマツ）	西田優香（了徳寺学園）	志々目愛（帝京大） 中村美里（三井住友海上）	
57 kg級	松本 薫（フォーリフジャパン）	モンテイロ（ポルトガル）	芳田司（コマツ） シルバ（ブラジル）	山本杏（国士舘大）=5位 宇高菜絵（コマツ）=7位
63 kg級	トレステニア（スロベニア）	ジベンドウ（イタリア）	西川真帆（龍谷大） ファンエムデン（オランダ）	田代未奈（コマツ）=2回戦敗退 平井希（自衛隊体育学校）=2回戦敗退 嶺井美穂（桐蔭学園高）=1回戦敗退
70 kg級	エマヌ（フランス）	田知本遥（ALSOK）	ズパンチッチ（カナダ） ファルカスコッホ（ドイツ）	ヌンイラ華蓮（了徳寺学園）=5位 安松春香（ALSOK）=2回戦敗退 新井千鶴（三井住友海上）=1回戦敗退
78 kg級	ハリソン（アメリカ）	佐藤瑠香（コマツ）	ベレンセク（スロベニア） 濱田尚里（自衛隊体育学校）	緒方亜香里（了徳寺学園）=5位 梅木真美（環太平洋大）=1回戦敗退
78 kg超級	稲森奈見（三井住友海上）	朝比奈沙羅（渋谷教育学園渋谷高）	田知本愛（ALSOK） シビソバ（ロシア）	山部佳苗（ミキハウス）=5位

好評発売中!

柔道 その歴史と技法

筑波大学体育系教授 藤堂 良明 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円+税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。



武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた*武道としての柔道、を見失わないでいただきたいと願うものである。(本書「あとがき」より抜粋)

目次

- | | | |
|--|--|---|
| <p>第一章 組討ちの起こりと技法
 体術の起こりと技法
 組討ちの体系化と技法</p> | <p>第三章 講道館柔道の歴史と技法
 講道館柔道の創設と技法
 嘉納治五郎の乱取開発
 講道館柔道の行事と整備
 警視庁武術大会の勝利と技法
 学校体操への柔道導入の試み
 学校における柔道普及の実態
 高専柔道の起こりと技法
 嘉納治五郎の他武道への接近
 精力善用国民体育の創案と技法
 全日本柔道選士権大会の開催と技法</p> | <p>第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法
 第二次大戦中の柔道界と技法
 第二次大戦後の柔道禁止と復活
 格技柔道から武道柔道へ
 女子柔道の競技化と技法</p> |
| <p>第二章 柔術諸流派の歴史と技法
 竹内流腰廻
 関口新心流柔術
 起倒流柔術
 起倒流柔道
 直信流柔道
 真之神道流柔術
 天神真楊流柔術</p> | <p>第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題
 柔道技法の変遷と特徴
 柔道の国際的普及と発展
 段位制度の国際比較
 柔道の国際化と課題</p> | |

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
 ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
 日本武道館出版広報課
 までどうぞ!

TEL03(3216)5147
 FAX03(3216)5158

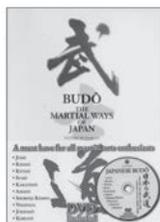
日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)

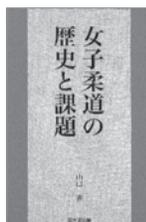


役に立つ 少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

(A5判・並製・DVD付・414頁)



女子柔道の 歴史と課題

筑波大学体育系准教授

山口 香 著

(四六判・上製・412頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



柔道は すばらしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

(四六判・上製・310頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)



武道 子どもの心を育む

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



柔道の国際化 一その歴史と課題

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

(四六判・上製・552頁)



嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

(四六判・上製・292頁)



《男子組手決勝・中堅戦》近畿・葭矢（右）対京都産業・鹿村Ⅱ段矢が上段突きを決める

全日本大学空手道選手権大会

男子組手、近畿大が2連覇 女子組手、形・男女とも帝京大

第58回全日本大学空手道選手権大会は、11月16日に日本武道館で開かれ、男女組手・形の団体戦で争われた。男子組手は、決勝で近畿が京都産業を降し、2年連続13回目の優勝。自らが持つ最多優勝回数を更新した。女子組手は帝京が5年連続6回目の頂点に立った。形は男女とも帝京が制し、連続優勝記録を更新した（男子Ⅱ7年連続7回目、女子Ⅱ5年連続6回目）。

《組手》

試合は男子が5人制、女子が3人制、2分間6ポイント先取で行われ（男子のみ準決勝以降3分8ポイント先取）、対戦相手校が初戦の場合以外は勝敗が決した時点で終了とし、トーナメント戦で争われた。

■男子（64校）

前回優勝（2連覇）の近畿は、初戦から東海学園に5―0、明治に3―0、駒澤に3―1と勝ち進み、準々決勝では日本を3―0で退けた。

準決勝に進んだのは、その近畿と帝京、大阪商業と京都産業。

近畿と帝京の対戦は、近畿1年の先鋒・西村拳が帝京・石塚将也を3

1で降す。次鋒戦も近畿が勝ち、中堅戦は引分け。後がない帝京は副将戦で勝利を収めて粘る。

勝負のかかった大将戦、近畿・工藤開は帝京・野口雅浩を2-1の僅差で退け、近畿が3-1で決勝に進んだ。

男子組手優勝 近畿



一方のブロックでは京都産業の先鋒・藤澤貴樹、中堅・荒賀慎太郎が勝利。副将戦は大阪商業が取って2-1とするも、大将戦は京都産業・鹿村裕明が大阪商業・市本寛を8-1で退けた。結果、京都産業が3-1で決勝の舞台に進んだ。

男子組手準決勝



近畿・西村と帝京・石塚の先鋒戦は、西村に軍配。写真は中段突きを決める西村(右)



大阪商業との大将戦で上段突きを決める京都産業・鹿村(右)

▽決勝

近畿	2-0	京都産業
西村 拳	0-0	荒賀慎太郎
工藤 開	0-0	藤澤貴樹
○葭矢雄太	3-0	鹿村裕明
○北原暉人	4-3	細見享佑
池内義政	X	和泉貴旭

近畿と京都産業の両校が決勝で顔を合わせるの4回目。過去の成績は近畿が2勝で勝ち越している。

先鋒、次鋒は引き分け。中堅戦、近畿・葭矢は京都産業・鹿村にカウンターの上段逆突きを決めて先制。葭矢はその後突き技でポイントを奪って勝利した。

副将戦、近畿・北原は京都産業・細見に3-1とリードを奪われるも、前拳での返し技が冴えて4-3と逆転し、勝利をものにした。この時点で近畿の2勝0敗となり、2年連続13回目の優勝が決まった。

◎優勝 近畿・木島明彦監督

「勝つということは大変だと実感しました。松久功、井渕智、篠原浩人、近藤大地、宮本大希といった歴代の猛者たちが指導に来てくれました。それがうちの強みです。私だけの指導では無理でしたね」



決勝、副将戦で逆転勝利した北原を迎える近畿の選手たち

◎優勝 近畿中堅・葭矢雄太選手

「失点は絶対にしないよう気をつけて戦いました。得意技は相手が出てきたところの返し技です。決勝ではそれがうまく出せました」

◎優勝 近畿副将・北原暉人選手

「前回に続いて自分のところで優勝が決まりました。4年生なので、学生としては最後の試合でした。近大に来てよかったです」

■女子（56校）

4連覇中の帝京は、初戦（2回戦）で東北福祉を3-0、3回戦で九州産業を2-0で降す。準々決勝では駒澤と1-1で並ぶもポイント数6

3で勝り、準決勝進出を決めた。ベスト4には帝京、近畿、同志社、関西学院が揃った。帝京対近畿は、帝京の先鋒・川村菜摘が近畿・門屋安里奈に3-0で

勝利。中堅戦も、帝京・植草歩が近畿・中尾彩乃を退け、5年連続の決勝進出を決めた。一方のブロックでは、同志社が関西学院に先鋒戦で勝利。続く中堅戦でも同志社・東海志

保が関西学院・竹本里穂を降し、同志社が決勝へと駒を進めた。

▽決勝

帝京 2-1 同志社

○染谷真有美 2-0 東海志保

川村菜摘 0-5 ○大野ひかる

○植草歩 6-1 厚海李帆

3年ぶりに決勝で対戦の帝京と同志社。先鋒戦では、帝京・染谷が同志社・東海の出端に右上段逆突き、さらには跳び込んでの左上段逆突きで勝利した。中堅戦は、同志社・大野が帝京・川村に右上段裏回し蹴りを決めるなどして勝利。

《女子組手決勝・大将戦》帝京・植草（左）対同志社・厚海（右）植草が上段逆突きを決める



《女子組手決勝・中堅戦》同志社・大野（左）対帝京・川村＝大野が上段裏回し蹴りを決める



女子組手優勝の帝京チーム

◎優勝 帝京大将・植草歩選手

「大将を務めていた先輩たちが、決定的な場面で圧勝しているのを見てきたので、自分も頑張ろうと思いました。決勝で日本武道館の大道場に立ったとき、大きな声援が聞こえました。後輩たちには、この一丸となったチームに所属する幸せを感じながら、学生生活を送ってほしいです」

《形》

3人制。予選は指定形による得点制で競われ、上位4校が決勝に進出。決勝は形の分解を加え、旗判定によるトーナメント方式で争われた。

■男子（13校）

予選得点上位4校は、順に帝京、同志社、山梨学院、駒澤。

昨年6月の世界学生優勝メンバーで臨んだ帝京は杜鎮を演武し、駒澤の雲手を5-0で降した。一方では



男子形優勝＝帝京（雲手・分解）、左から林田、橋爪、名倉

同志社がスーパーリンペイで山梨学院のチャタンヤラ・クーサンクーを4-1で退けた。

決勝、帝京は雲手、同志社はアーンを演武。帝京が5-0で同志社に勝利し、7年連続7回目の優勝を遂げた。

◎優勝Ⅱ帝京・名倉亮太選手

「去年も出させてもらいました。連覇を止められないように、最後まで全部を出し切りしました」



女子形優勝＝帝京（雲手）、左から磯村、遠藤、古澤

◎優勝Ⅱ帝京・橋爪和規選手

「3年生までは補欠でした。レギュラーで初出場した最後の学生大会で優勝が来て、とても嬉しいです」

◎優勝Ⅱ帝京・林田至史選手

「このメンバーで、毎日練習を続けてきました。どこの大学よりも強いつながりのあるチームだと思います。連覇が出来てよかったです」

■女子（11校）

予選は全日本選手権3位の実力者、大野ひかるが率いる同志社がトップ通過。2位以下は帝京、芦屋、天理の順。

同志社対天理は、両校ともアーンを演武。同志社が5-0で勝利した。一方の対戦は、帝京が五十四歩小で芦屋の泊バツサイを完封した。

決勝は前回と同じ顔合わせ。先行の同志社はクルルンファ、後攻の帝京は雲手を演武した。両校ともスピードのある形を披露。結果は帝京が3-2で同志社を降し、5年連続6回目の優勝を果たした。

◎優勝Ⅱ帝京・磯村美季選手

「自信がなかったので、たくさん練習しました。勝った瞬間は今までや

ってきたことがフィードバックして涙があふれました」

◎優勝Ⅱ帝京・遠藤千夏選手

「来年はもっとレベルを上げて優勝できるように頑張ります。次も3人で出られるように頑張ります」

◎優勝Ⅱ帝京・古澤香寿美選手

「予選は緊張しました。決勝はリラックスして思い切り打つたので、楽しく出来ました」

【大会結果】

■男子組手

▽優勝Ⅱ近畿

▽準優勝Ⅱ京都産業

▽3位Ⅱ大阪商業、帝京

■女子組手

▽優勝Ⅱ帝京

▽準優勝Ⅱ同志社

▽3位Ⅱ近畿、関西学院

■男子形

▽優勝Ⅱ帝京

▽準優勝Ⅱ同志社

▽3位Ⅱ駒澤、山梨学院

■女子形

▽優勝Ⅱ帝京

▽準優勝Ⅱ同志社

▽3位Ⅱ天理、芦屋

好評発売中

国際武道大学教授
松尾牧則 (まつお まきのり) 著

弓道

その歴史と技法

弓矢の発生から日本における弓術の発達、技法の発展の歴史を追いながら概観し、また、世界の弓術の数々も紹介。現代の弓道の課題や射法についても踏み込んだ、弓道研究の第一線に立つ著者渾身の一書。巻末には、五百冊以上に及ぶ参考文献や、人名索引・事項索引を掲載。弓道のみならず、武道研究者必携の書。



四六判・上製・484頁

目次

- 第一章 弓矢の発生と世界の弓術
弓矢の発生と性能向上の工夫／世界の弓矢と射法／W T A Fにみる世界の弓術
 - 第二章 日本の弓矢と弓術
日本の弓矢の特性——初期の弓矢／日本弓の変遷と特徴ある形状／日本の矢と弓矢関連具／レクリエーション、儀式としての弓術／歩射と騎射／弓矢の誉
 - 第三章 弓術流派と目的に応じた射術
武術の分化と伝達様式の整備／日置弾正と勸進的の流行／日置弾正正次の肖像と技法／弓術諸流派の技法と伝承／大和流弓術とその伝達様式／三十三間堂通し矢の誉——堂射の隆盛と弓具・技法の工夫／「五射六科」／五射の実践／「五射六科」六科の教養／弓術稽古の意義と心得
 - 第四章 弓術から弓道へ
弓術の衰退と命脈——明治時代の弓術／「弓術」から「弓道」へ——大正と昭和初期の弓術／昭和初期の戦中の弓道／戦後の弓道復活と連盟組織
 - 第五章 現代の弓道と将来展望
現在の弓道連盟と競技・審査／新素材の弓具／弓具・服装・施設／学校教育における弓道／現代弓道の体系化された技法
①／現代弓道の体系化された技法② 射法八節の要点／弓道——その将来展望と課題
- 参考文献・索引

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)

武道の全容をこの一冊に集大成!



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)

『日本の武道』の英文版(DVD付)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)

武道における礼法を小笠原流宗家が直々に指南



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

(四六判・上製・278頁)

武道をわかり易く描いた教養マンガ



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)

希代の弓人阿波研造の人物伝



霊箭 阿波研造物語

小学校教諭

馬見塚昭久 著

(四六判・上製・320頁)

日本人が拠り所としてきた価値観を詳説



日本の元徳

東京大学大学院教授

菅野 覚明 著

(四六判・上製・334頁)

『五輪書』などの代表的な武道伝書を詳解



武道伝書を読む

天理大学教授

湯浅 晃 著

(四六判・上製・348頁)

著者の半生をたどり、弓道の魅力に迫る



弓道 その魅力

山口大学名誉教授

岡村豊太郎 著

(四六判・上製・272頁)

子どもを育む武道の教育力を詳説



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)

武道の文化的・伝統的な事柄を解明



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)

第48回少林寺拳法全日本学生大会

修練の成果を技に込めて披露



男子二段以上＝千葉・成田（東北学院）



女子二段以上＝伊勢・佐原（日本）

第48回少林寺拳法全日本学生大会は11月30日、日本武道館で開催された。全国から集まった153大学延べ1981名の学生拳士が、演武や立会評価法で技を競い合った。

大会は午前9時に開会した。今年の大会では「禪」がテーマとして掲げられた。鎮魂行の後、午前中は演武各種目の予選が行われた。種目は全17種目。組演武、三人掛、単独演武、団体演武が、それぞれ性別や段級位によって分かれている。

予選は各種目とも、複数のコートに分かれて演武が行われた。「技術度」「表現度」「構成・リズム・節度」「体構え・立ち方・美しさ」「気迫・気合い・冴え」「調息・目配り・残心」の項目を審判員が評価した得点で順位を競い合い、各コート上位者が本選へ進んだ。

午後1時半からは開会式が行われ、松平頼武全日本学生少林寺拳法連盟会長、新井庸弘少林寺拳法連盟会長が選手を激励した。そして閉会式終了後、予選通過者による本選が始まった。

本選出場者は、再度、力を存分に



男女二段以上＝堀井・堀尾（明治）



男子団体＝東京



女子団体＝日本体育

【大会結果】 ※演武のみ

- ▽男子二段以上 ①千葉周平・成田樹（東北学院）、②田部井祐・山本裕也（早稲田）、③内山田駿・山岡健太（日本体育）
- ▽女子二段以上 ①伊勢歩美・佐原まい（日本）、②倉松瑞樹・宮迫汐里（大阪産業）、③畔蒜みく・林惠理子（日本体育）
- ▽男女二段以上 ①堀井颯馬・堀尾愛（明治）、②森久輝・山本祐加（早稲田）、③野井加奈子・柳田佳祐（日本体育）
- ▽男子初段 ①勝田将揮・鈴木康平（日本体育）、②松林昂希・宮崎善行（東京）、③阿尻多聞・埤見公介（駒澤）
- ▽女子初段 ①田口蘭奈・横谷マイア（明治学院）、②伊藤早穂・英日菜子（早稲田）、③瓜生瞳・百井香穂（東

北学院

- ▽男女初段 ①返田暢・藤田詩織（明治学院）、②朝井優・吉田咲樹（早稲田）、③大塚敬子・安友健一（愛知）
- ▽男子茶帯 ①赤岡拓・山本裕貴（早稲田）、②金広凌・長谷川稜（学習院）、③土橋直己・彭思雄（東京）
- ▽女子茶帯 ①秋光萌・浅見凜（早稲田）、②竹林万由・山田麻理（同志社）、③向山綾・森上優菜（東京）
- ▽男女茶帯 ①手束祥子・松村眞吾（京都）、②宇恵柚花・栗野隆世（慶應義塾）、③高村映光・寺岡佳哉（日本）
- ▽男子白緑帯 ①光山成宇・谷部拓昇（早稲田）、②岡本琢也・山内楓仁（岡山）、③内谷仁・小川拓也（上智）
- ▽女子白緑帯 ①岩崎志保・渡邊雪野（明治学院）、②白石玲奈・春山奈津（東京農業）、③小櫻華苗・高崎理沙

（上智）

- ▽男女白緑 ①坂田英作・横山可奈子（明治）、②糸井絢子・地元昇太（早稲田）、③宇井聡美・宮下達也（明治学院）
- ▽三人掛け ①青木拓磨・下山祥来・友井啓了（日本体育）、②豊田竜大・伊藤輝、清水遼太（明治）、③今井悠二、江原明徳、日野翔太（早稲田）
- ▽単独有段 ①近藤茉莉（酪農学園）、②吉田奈央（函館）、③新保和樹（東京）
- ▽単独段外 ①石川広都（日本体育）、②佐々木秀教（北海学園）、③大島美海（日本）
- ▽団体の部 ①東京、②早稲田、③防衛
- ▽女子団体の部 ①日本体育、②明治、③同志社

發揮して演武を披露。予選同様、審判員による得点によって入賞者が決定した。

演武本選終了後は、立会評価法（防具を着けた実践形式の攻防）が行われた。男女階級ごとの部門に分かれ、各出場者は攻者・守者・双方攻守で一人3試合を戦い、有効技が決まると得点が入る。また、技だけでなく表現度も評価される。順位は3試合の合計得点で決定した。

すべての競技が終わり、閉会式では、各種目の最優秀演武が全員の前で披露され、受賞者には盛大な拍手が送られた。

◎男子二段以上の部優勝
成田樹拳士（東北学院）

「3年生なので、これが最後というつもりで出場しました。1位を取って、大きな会場の中央で演武できて気持ちよかったです」

◎女子二段以上の部優勝

佐原まい拳士（日本）

「全力を尽くせました。二人でペアを組んで半年になります。お互いを思いやることが息の合った演武の秘訣だと思っています」

好評発売中

『人、人、人、
すべては人の質にある……』
少林寺拳法創始者・宗道臣先生に
直接手ほどきを受けた著者入魂の
武道教育論！

可能性の

種子たち

『**魄**』は生きるための生命力——
『**魂**』は人間を善に導く原動力——

魂魄(こころ)が健全に育てば、豊かな感性や
意思力、行動力などが備わり、やがて得るであ
る多くの知識を、智慧とすることが出来る。
子どもたちの躍動の一つひとつが、可能性の種
子の芽生えなのである。

—魂魄(こころ)を育てる—

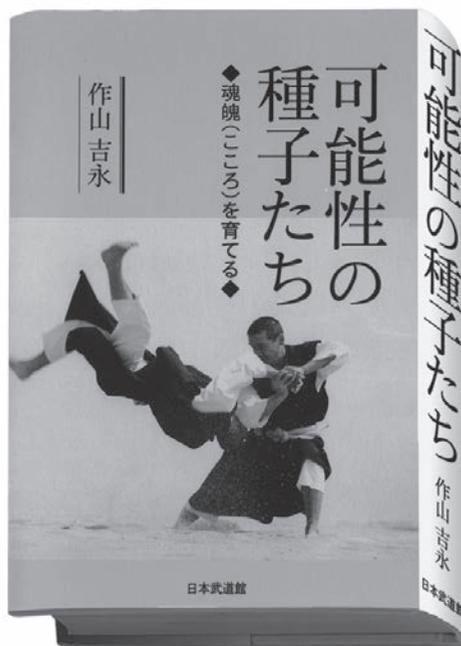
金剛禅総本山少林寺茨城高秋道院長

作山吉永 著

(四六判・上製・338頁)

主な目次

- 第1章 少林寺拳法 / 第2章 直心是道場 / 第3章 師事 /
- 第4章 マイ・アメリカ / 第5章 可能性の種子、芽吹く /
- 第6章 嵩山少林寺 / 第7章 魂魄(こころ)を育てる /
- 第8章 新しい扉を開く



編集・発行 日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)

マンガ・武道のすすめ



(B5判・236頁)

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・
銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、
すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。



少林寺拳法は4話を掲載！



世界空手道選手権大会

総合力を見せた日本が 世界一の成績

金3、銀3、銅5のメダルを獲得



男子個人組手 -75kg級優勝＝谷竜一（京都府警）



女子個人形優勝＝清水希容（関西大）



男子個人形優勝＝喜多名諒（龍鳳会）



日本選手団の記念写真

第22回世界空手道選手権大会（主催Ⅱ世界空手連盟（WKF））は、昨年の11月5日〜9日、ドイツ・ブレイメン市ÖVBアリーナで開催された。WKFの世界大会は2年に一度開催され、本大会は116カ国から延べ975名の選手が集まり、5日間にわたる熱戦を繰り広げた。日本は、全16種目に22名の選手が参加し、金3、銀3、銅5、計11個のメダルを獲得した。これは参加国中、1位の成績であった。

（文・写真Ⅱ空手道マガジン
月刊JKFan）

■男子個人組手

▽.75kg級

2008年東京大会以来、優勝がなかった男子個人組手の部では、谷竜一（京都府警）が初出場にして初優勝を果たした。谷は準々決勝で一度「反則負け」を宣告されるものの、コーチによる抗議が認められ、判定が取り消されて競技再開。形勢を逆転させて決勝進出を果たした。

決勝は、前回チャンピオンのルイジ・ブサ（イタリア）との対戦で、シンプルな突きを主体とした組手を

する谷に対し、ブサはヨーロッパ選手独特のステップワークや、トリックキーな組手をする。また、国際大会の経験年数から言ってもブサ有利の声が多かった。しかし決勝戦では、ブサに先制されながらも、谷が必死に上段突きを決めてポイントを取り返し、3-3の同点から、終了間際に上段突きを決めて逆転。4-3で谷が優勝を果たした。

「運」を持ち合わせていた谷。今年度いっぱいでもナショナルチームからの引退を表明している。試合後、「小さな頃からの夢だった世界チャンピオンになれて嬉しいですよ」と控えめに喜びを語った。

▽.84kg級

荒賀龍太郎（荒賀道場）が決勝に進出し、アルカニア・ゴジタ（ゲルジア）と対戦した。荒賀は優勝を意識し過ぎて気負ってしまったか、組



男子個人組手-84kg級準優勝=荒賀龍太郎（荒賀道場）



女子個人組手 -61kg級 3位 = 染谷真有美 (帝京大)



女子個人組手 -55kg級 3位 = 小林実希 (帝京大職)

手に準決勝までのような精彩を欠き、敗北。前回大会に続き、準優勝となった。

■女子個人組手

▽-55kg級

小林実希(帝京大職)は2010年の優勝、2012年の3位に続き今大会でも3位に入賞。

▽-61kg級

染谷真有美(帝京大3年)は初出場で、序盤こそ動きに硬さが見られたが、コーチらのアドバイスを受け



女子個人組手 +68kg級 3位 = 植草歩 (帝京大)

積極的に攻撃する普段のスタイルを取り戻し、3位に入賞した。

▽+68kg級

植草歩(帝京大4年)は3位決定戦でメルテム・ホカオグル(トルコ)と対戦。開始早々上段蹴りをもらって先制されるが、投げで崩した後の突き、得意の中段突きでポイントを重ね、前回大会に続く3位入賞であった。

■団体組手

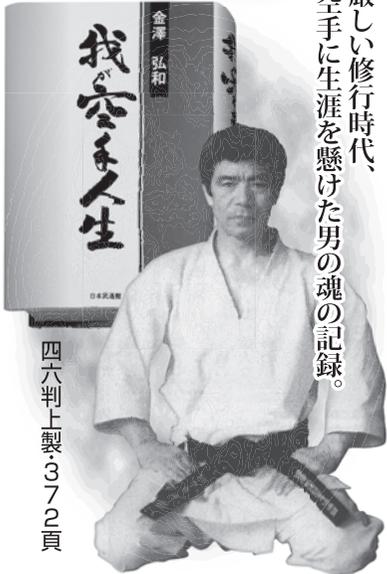
日本選手団がもつとも感動した出

我が空手人生

国際松清館空手道連盟館長

金澤 弘和 著

生いたちから父母の教え、「からて」との出合い、拓殖大学空手部に始まる厳しい修行時代、全日本制覇、海外への普及、組織の結成、そして独自の空手理論構築まで、空手に生涯を懸けた男の魂の記録。



四六判上製・372頁

◎ご注文・お問い合わせ◎

日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
http://www.nipponbudokan.or.jp



女子団体組手3位＝表彰台に上がる日本選手
(左から小林実希、染谷香予、植草歩、川村菜摘)



男子団体組手3位＝表彰台に上がる日本選手 (左から飯村吏毅哉、香川幸允、荒賀龍太郎、篠原浩人、渡邊大輔、谷竜一、石塚将也)

来事のひとつが、男女団体組手がそろって銅メダルを獲得したことである。

男子は本戦で優勝チームのイランに敗れたものの、3位決定戦では、先鋒・荒賀龍太郎が6-4、続く渡邊大輔が6-0、中堅の香川幸允が4-0で勝利、前3人で、ベラルーシを降した。この種目では22年ぶりのメダル獲得であることから、喜びもひとしおであった。

女子は国際大会の経験も豊富な小林、染谷香予、植草に、初出場の川村菜摘が加わったメンバー編成。準決勝ではフランスに1勝1敗、総得点わずか1ポイント差で敗れたものの、3位決定戦ではロシアを相手に

先鋒の川村、中堅の染谷が勝利し、2大会連続の第3位入賞を決めた。

■形競技

男子個人形では、喜友名諒(龍鳳会)が悲願の初優勝を果たした。前回大会で3位、世界との実力差を痛感してから心身ともに厳しく鍛え抜いてきた結果、この2年で形の強さ、迫力、武術的な身体の使い方が格段に上がり、力強く円熟味のある形になってきた。

決勝戦は地元ドイツのイリヤ・スモルグナとの対戦となったことから、約2万人の観客はスモルグナに大声援を送り、完全なアウェー状態になった。しかし、先攻の喜友名は

集中力と気迫を保ち、堂々たるアーナンを演武した。後攻のスマルグナは、パイクーを演武。同じ「劉衛流」の形同士の対決となったが、いつも「本家本元」沖縄で劉衛流を学ぶ喜友名の錬度が光り、5-0で完全勝利を果たした。

喜友名は、師匠であり男子形の元世界チャンピオン・佐久本嗣男氏を始め、様々な人に感謝を述べると同時に、現役続行の意思を表明し、「個人形の連覇と、団体形でも出場して優勝を狙いたい」と新たな目標を掲げた。日本人での優勝は2002年以来12年ぶりの優勝であった。

女子個人形では初出場の清水希容（関西大学3年）が出場。初戦から5-0で勝ち上がり、決勝戦ではサンディ・スコルド（フランス）との

清水希容、全試合5-0の完全勝利で世界チャンピオン



「2年前、宇佐美先輩が優勝した瞬間を動画で観てから、世界中の人に感動してもらえる形を演武し優勝することを夢見てきました。この2年間、苦しいことの方が多かったけれど、やっと世界一になりました。たくさんの方の支えがあり、ここまで来ることができました」



視覚障がい男子形の部準優勝＝大庭康資（ユニバーサル松濤館連合）

対戦になった。スコルドはヨーロッパチャンピオンであり、前回では日本の宇佐美里香に敗れて準優勝であった。今度こそ優勝との闘志が形に表れており、決勝戦では一番の得意形であるウンスーを披露。その仕上がりも非常に良かった。後攻の清水は、こちらも一番の得意形、チャタニヤラ・クーサンクーを演武。技の速さ、キレや緩急だけでなく、形に懸ける思いが凄みとなって表れ、アーリーナ中の観客席から拍手が起った。両者、最善を尽くした演武だったが、5-0で清水が優勝。実力で大きく差をつけた結果だと言えるだろう。

■団体形

男女ともに悔しい結果になってし



女子団体形準優勝＝左から柏岡鈴香、木村陽子、森岡実久

まった。前回、両チームとも優勝を果たし、女子については2008年から3連覇中であったが、男子は初戦でトルコに0-5で敗北。女子は決勝戦に進出するものの、分解で数度のミスをしてしまい、ドイツに2-3で惜敗。女子は形も分解も実力差が明確だっただけに、惜しい結果であった。

■第1回障がい者大会

今大会の特徴は、「第1回世界障がい者空手道選手権大会」が同時開催されたことである。知的障がい、視覚障がい、車いすの部（それぞれ男女別）に部門分けをし、22カ国総勢45名が点数制で形を競った。日本からは視覚障がいの部に大庭

康資（ユニバーサル松濤館連合）、知的障がい部に柴田一哉（北海道松濤明武会）が出場し、大庭が予選を突破。決勝戦では、連続した方向転換や、回転しながらのジャンプを含む難易度の高い形、エンピを演じ切り、高得点を挙げて銀メダルを獲得した。

◇ 大庭のメダルを含め、今回日本は金3、銀3、銅5、計11個のメダル



奈藏稔久氏、WKF事務総長に就任

大会と併せて開催された世界空手連盟の総会および理事会において、全日本空手道連盟の奈藏稔久理事がWKF事務総長に就任することが決定した。WKF理事会で決定した事項の執行責任者となり、アジア、ヨーロッパ、オセアニア、パンアメリカ

を獲得した。これは参加国中1位の成績であった。香川政夫監督は大会を振り返り、「どの国も競技力をつけている中、選手たちはよく頑張ってくれたと思います。私は15年前にナショナルチームコーチとなり、4年前に監督に就任しました。今期いっばいで監督を退任しますが、最高のかたちで世界大会を終えることが出来ました。『監督人生に悔いなし』です」と、満足気な様子であった。

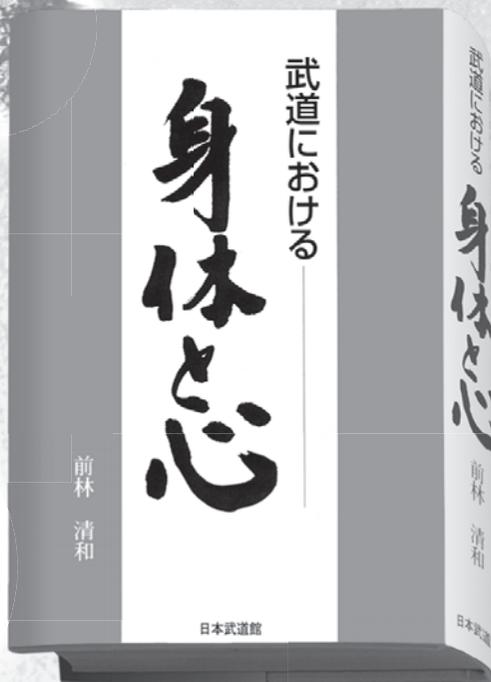
カ、アフリカの各大陸空手道連盟間の調整等が主な職務となる。そして、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を控え、五輪種目数の上限を撤廃し、開催都市が追加種目の提案権を持ったことから、「空手道のオリンピック正式種目入り」を目指したWKFの活動においても、重要な役割を担うこととなる。

この他に日本人が関わる人事としては、技術委員会の佐久本嗣男委員長と大木るみ子委員が退任、香川政夫氏と喜島智香子氏が新しく就任、また、審判委員会の樹村茂樹委員が退任、高橋和夫氏の就任が決まった。

【大会結果】

	優勝	2位	3位	日本・日本人選手結果		
男子	▽組手					
	団体	イラン	ドイツ	日本/トルコ		
	個人	-60kg級	Brose Douglas (ブラジル)	Berens Geoffrey (オランダ)	Plakhutin Evgeny (ロシア) Mahdi-Zadeh Amir (イラン)	荒賀慎太郎 (京都産業大)=3回戦敗退
		-67kg級	Rolle William (フランス)	Hanafy Magdy (エジプト)	Rezende-Figueira Vinicius (ブラジル) Bajrami Kujtim (スイス)	篠原浩人 (源武館)=3回戦敗退
		-75kg級	谷電一 (京都府警)	Busa Luigi (イタリア)	Horuna Stanislav (ウクライナ) Bitsch Noah (ドイツ)	
		-84kg級	Arkania Gogita (グルジア)	荒賀龍太郎 (荒賀道場)	Gunduz Gokhan (トルコ) El-Kotby Mohamed (エジプト)	
		+84kg級	Erkan Enes (トルコ)	Ganjzadeh Sajad (イラン)	Zukan Admir (ボスニア) Vizuete-Fernandez Jagoba (スペイン)	香川幸允 (テアトルアカデミー)=2回戦敗退
	▽形					
	団体	スペイン	エジプト	フランス/マレーシア	日本 2回戦敗退	
	個人	喜友名諒 (龍鳳会)	Smorguner Ilja (ドイツ)	Dack Vu-Duc-Minh (フランス) Diaz Antonio (ベネズエラ)		
女子	▽組手					
	団体	エジプト	フランス	日本/トルコ		
	個人	-50kg級	Ozcelik Serap (トルコ)	Bugur Duygu (ドイツ)	Sanchez-Esteba Rocío (スペイン) Recchia Alexandra (フランス)	遠藤千夏 (帝京大)=3回戦敗退
		-55kg級	Cardin Sara (イタリア)	Thouy Emilie (フランス)	小林実希 (帝京大職) Bitsch Jana (ドイツ)	
		-61kg級	Lotfy Giana (エジプト)	Jeffry_Krishnan Syakilla_Salmi (マレーシア)	染谷真有美 (帝京大) Pasqua Laura (イタリア)	
		-68kg級	Agier Alizee (フランス)	Brunstad Gitte (ノルウェー)	Zaretska Iryna (ウクライナ) Buchinger Alisa (オーストリア)	染谷香子 (テアトルアカデミー)=3回戦敗退
		+68kg級	Abouel_Yazed Shymaa (エジプト)	Abbasali Hamideh (イラン)	植草歩 (帝京大) Palacio-Gonzalez Laura (スペイン)	
	▽形					
	団体	ドイツ	日本	イタリア/イラン		
	個人	清水希容 (関西大)	Scordo Sandy (フランス)	Martin-Abello Yaiza (スペイン) Bleul Jasmin (ドイツ)		

好評発売中



神戸学院大学教授 前林清和 著
(四六判・上製・370頁)

武道における身体と心

指導者必読！ 心身を一体的に鍛え高める武道人間学のすすめ。
本書は、「近世武芸書」に残された日本の伝統的身心論を読み解き、全人的教育を目指す武道のあり方を提言する著者渾身の一書。

【目次】

- プロローグ 武道に学ぶホリスティックな身体
- 第一章 日本人の身体観の源流—中世—
 - 第一節・武士の覚悟／第二節・禅と悟り／第三節・能楽の稽古
- 第二章 武道の心
 - 第一節・不動心／第二節・武道の悟り／第三節・駆け引き／第四節・目付／第五節・瞑想
- 第三章 武道の気
 - 第一節・気とは何か／第二節・気の歴史と武士／第三節・勝負と気／第四節・天道と心気／第五節・静と気／第六節・達人と気
- 第四章 武道の技と心身
 - 第一節・武道の型／第二節・柳生の技／第三節・武蔵の技／第四節・竹刀打込剣術／第五節・心法重視の型剣術／第六節・柔よく剛を制す／第七節・重／第八節・鍛錬
- 第五章 人をつくる武道
 - 第一節・現代剣道と人間形成／第三節・佐川派大東流の技と修行／第三節・身を処する／第四節・死と生

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道

子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

マンガ・武道のすすめ



(B5判・236頁)

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・
銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、
すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

合気道は4話を掲載！



多田宏先生



磯山博先生



菅沼守人先生



東北大学学友会合気道部



新聞紙を突く

第1回全国銃剣道指導者研修会

中学校授業への 銃剣道採用を目指して研修会開催

12月5～7日 日本武道館研修センター

第1回全国銃剣道指導者研修会（主催Ⅱ日本武道館、全日本銃剣道連盟、後援Ⅱ文部科学省）は12月5～7日、千葉・勝浦の日本武道館研修センターで行われた。研修会には56名（うち教員8名、女子8名）が参加し、銃剣道の理解を深め、専門的な知識・技術・指導法の充実を図り、もって全国的な銃剣道指導者の養成と資質向上に寄与することを目的に開催された。

5日14時から記念撮影に続いて、開講式が行われた。始めに主催者を代表して酒井健全日本銃剣道連盟会長が挨拶に立った。

「2年前の4月から武道が必修となりましたが、残念ながら銃剣道は実施している中学校が一つもありません。中学校において銃剣道をますます発展させるためにこの研修会に参加して、勉強していただき、その上で中学校で銃剣道を始められるよう努力していただきたいと思います」

続いて三藤芳生日本武道館理事・事務局長が挨拶を述べた。

「銃剣道は単純明快な力強い武道です。決断力、胆力、体力を含めて、



アレキサンダー・ベネット
関西大学准教授



鈴木健全日本銃剣道連盟
副会長兼専務理事



三藤芳生
日本武道館理事・事務局長



酒井健
全日本銃剣道連盟会長

ベネット氏は自身が武道修業を始めたきつかけから話し始め、日本の研究のためにイランへ留学した経験などを交えながら、海外の武道事情を解説。武道の国際的普及のためには、国内のコンセンサスやイメージ、事業、資金などの諸問題のほかに、段位を簡単に与えすぎないことなどを注意点として挙げた。また、国際的普及のためには寛容が要求されることとした研究も披露された。

その後は6日までかけて、社会体育指導者、高校部活動・中学校必修化対応の2班に分かれて目的別の研

銃剣道を修業すると立派な人格が形成されることを、全日本選手権、錬成大会で拝見して実感しております。参加者の皆さんには今回研修をしていただいて、それを地域、部活動、あるいは中学校で発揮していただきたいと思えます。

開講式終了後、鈴木健全日本銃剣道連盟副会長・専務理事による連盟の倫理に関する取組についての講義があり、アレキサンダー・ベネット関西大学准教授による講演「日本武道の国際的普及に関する諸問題」が行われた。



直突の反復練習

修が行われた。社会体育指導者班では、銃剣道の形の目的や心得、効果、留意点、さらに基本技から応用技まで幅広い実技について研修が行われた。

高校部活動・中学校必修化対応班は中学校武道（銃剣道）指導法研究事業で討議された内容を中心に、滝沢元氣講師を先生役として、研修会参加者を生徒に見立て、実際の模擬授業を行った。

初日は立つ、座るといった基本動作から、木銃の部位の説明、構え、足運びなどを行った。



飛んでくるボールを直突で突く

2日目は準備運動の続きのような形で前日に学んだ送り足のリレーを行った。その後は直突を指導。新聞紙やバレーボールなど、実際に物を突かせた。次はペアで向かい合って直突で突き合うが、その場から突いても絶対に届かない間合から突かせることで、安全面に配慮した。続いては反対交差の直突を行った。

最終的な目標としては、授業用に安全面で配慮した銃剣道の形の1、2、5、6本目を発表できるようにすることとした。



研修会には女性が8名集まった



社会体育指導者の研修

直突の出来具合をみて、礼や間合など、形特有の動きを指導し、1、2本目を行わせた。本来の形では間合が近いが、授業用に離して行った。その後、応じ技と打ち払い技を指導。相手に当てないために、号令に合わせて動作を行うようにし、繰り返して体に覚え込ませた。正規交差、反対交差ともに行い、形の5、6本目を指導して、ペア毎に形の1、2、5、6本目を通して行う演技が行われた。

その後は用具を着けて下突を行うなどして時間となった。



一組ずつ形を披露する

2日目夕方に行われた討論会は社会体育指導者班がブロック指導員と女子に分かれ、その他に高校部活動・中学校必修化対応班の計3班で行われた。

ブロック指導員は審判規則のうち、特に場外の認識や反則の取り扱いなどについて話し合われた。女子は女子選手、指導者の問題点や課題、女子選手の問題、将来の女子の団体戦などについて意見が出し合われた。

高校部活動・中学校必修化対応班では教員から見た保健体育授業・部



ブロック指導員の討論会



高校部活動・中学校必修化対応班の討論会



女子指導者の討論会



集合写真

活動の銃剣道採用に対する学校側へのアプローチの方法や、学校部活動での課題とその対策について討議がなされた。

参加者の勤務する岩手県の中学校では、24年度に武道が必修となるにあたり、地元銃剣道連盟の協力と校長の了承を得ていながら、県教育長から待ったがかかり、結局柔道を選択せざるを得なかった話や、公立高校であっても銃剣道部が大会で結果を残していることから、推薦で人を集めることができるような体制が整っている話など、各学校によって全く違う現状が披露された。

最終日は全日本銃剣道連盟主催大会で大会ドクターを務める尼子雅敏 防衛医科大学校病院医師が安全管理についての講演を行った。

中でも脳震盪や熱中症について、もしそれを起こした場合、適切に処置をすること、銃剣道で多い左胸の骨折については裏布団を厚くして左胸を守ること、軸足の右足首を捻挫した場合は、必ず氷で冷やすことなど、具体的な事例を挙げて説明し、最後にスポーツでは安全管理が重要で、指導者は選手の安全管理を守ること

が大切であり、日頃の応急対策を心がけるようにと締めくくった。

続いて閉講式が行われ、参加者を代表して田村聖一氏（富士市立富士南中学校教員）に修了証が授与された。講師を代表して佐藤亨講師が講評し、酒井会長が主催者挨拶を述べて、本研修会の全ての日程が終了した。

【講師名簿】

▽特別講師Ⅱアレキサンダー・ベネット（関西大学准教授）

▽講師Ⅱ尼子雅敏（防衛医科大学校病院医師）、佐藤亨（福島県銃剣道連盟副会長兼理事）、御山昇（千葉県銃剣道連盟副理事長）、石川慎也（香川県銃剣道連盟国体少年監督・尽誠学園高校銃剣道部監督）、滝沢元気（新潟県銃剣道連盟国体少年ヘッドコーチ・県立三条商業高校銃剣道部監督）

▽助講師Ⅱ丹下隆之（愛媛県銃剣道連盟国体少年監督・県立東温高校銃剣道部監督）、中野渡弥生（神奈川県銃剣道連盟本間道場指導員）、衛藤敬輔（全日本銃剣道連盟事業部次長）

▽特別講師Ⅱアレキサンダー・ベネット（関西大学准教授）



尼子雅敏防衛医科大学校病院医師の講演「安全管理について」



参加者を代表して田村聖一氏に修了証が贈られた

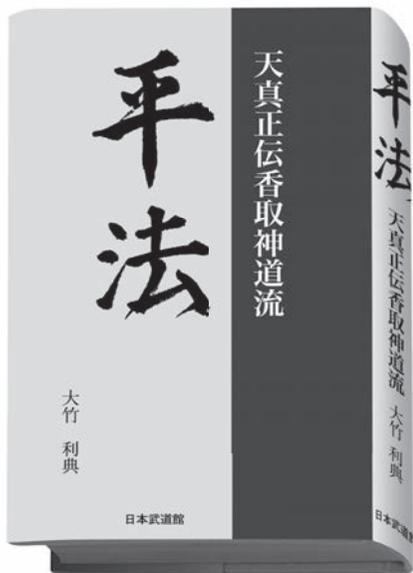
好評発売中

天真正伝香取神道流師範 大竹利典 著

平法

天真正伝香取神道流

近世剣術の源流として知られる天真正伝香取神道流の全伝を受け継ぐ著者が、その膨大な武と知を語る。



(四六判・上製・296頁)

香取神道流の歴史、剣術・居合術・薙刀術・手裏剣術などの武術、方術・築城術などの遁甲術や軍学兵法を、伝書を基に紹介。
さらに、七十年近い修行人生を振り返り、武を志す全ての者に必要な「平法（へいほう）」の思想について語る。

目次

序章	香取神宮御出緒
第一章	歴史篇
第一節	経津主大神の真伝、 「天真正伝香取神道流」
第二章	修行篇
第一節	入門
第二節	林先生に師事
第三節	香取神道流最初の異国の門弟
第四節	流祖生誕六百年記念祭
第三章	技術篇
第一節	剣術
第二節	居合術
第三節	棒術、薙刀術、槍術、手裏剣術
第四節	柔術
第五節	忍術
第四章	軍学兵法篇
第一節	遁甲術
第二節	刀剣と密教
第五章	思想篇—全ての修行者へ—
第一節	修行者の心得
第二節	兵法は平法なり —平和を願う偉大なる教え—



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット
(B5判・上製・DVD付・336頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



(B5判・上製・箱入・462頁)

古流武術研究家
横瀬 知行 著

日本の古武道

直接取材による2000枚の写真と豊富な資料で古流の全貌を紹介!

日本の古武道には長い歴史と伝統があり、流祖に始まる一子相伝の脈々たる生命の大河を貫く知恵と経験が一つの見事な体系となって現代に伝えられている。

全日本空手道連盟記者会見 ——「五輪アジェンダ 2020」可決を受けて 空手道、 東京五輪採用に第一歩



左から有竹専務理事、栗原副会長、植草選手、染谷選手、奈藏WKF事務総長、近藤広報委員

「五輪アジェンダ 2020」

パッハIOC会長が主導する40項目の五輪改革案。開催都市に対し、その大会に限り「1ないし複数」の競技追加提案権を与える案などが盛り込まれている。日本ではこれに先立ち、11月28日の東京都議会で「2020年東京大会における野球・ソフトボールと空手道の競技実施を求める決議」が可決されるなど、関係者内に五輪採用の機運が高まっている。

大会を開いていることを説明。また、WKFが1985年（昭和60）にIOCの認可を受け、国際大学スポーツ連盟、スポーツアコード、国際ワールドゲームズ協会と歩みを同じくしつつ、組織を展開し、競技運営していることを述べた。

他にも、空手道の特徴として、幅広い年代層に親しまれていること、日本武道館での開催を予定していること、障がい者の世界大会が開かれていることなどを紹介した。

五輪アジェンダについては、実施種目等に弾力的姿勢をとる（最低でも2つの競技Ⅱ男女無差別組手の実施を要求する。以下、男女形、男女団体の順で希望する）、男女共同参画、コンバットスポーツであっても暴力を否定することなどを基本姿勢にしていると説明した。

続いて、質疑応答に移ると、今後の取組と課題に関して質問が集まった。以下、回答の要旨。

▽栗原副会長「空手道推進議員連盟や、東京都議会自由民主党空手道推進政策研究会などに応援をいただきつつ、働きかけていきたい」

▽奈藏WKF事務総長「アントニ

オ・エスピノスWKF会長がトーマス・パッハIOC会長を訪問するなど、今までにない強い関係を作りつつある。今後は、エスピノス会長の日本オリンピック委員会訪問も予定している。事務的には、考えているよりも早い展開が予想される。しっかりと対応したい」

▽近藤彰郎空連メディア広報委員会2020東京推進委員会委員長「パッハ会長の、開催地の文化が認められてもよいという発言がある。空手道の礼節、形式美は世界に誇れる文化であり、国内では教育的価値が認められ、中学校で授業を実施している学校もある」

また、現役選手代表として同席した元世界女王（第21回優勝）の染谷香子選手と、第22回世界選手権3位の植草歩選手が、それぞれ「空手は世界を一つにする大きな力を持っている。五輪をきっかけに多くの人に知ってもらいたい」「五輪に出場して中高生に希望を与えられる選手になりたい」とコメントを述べた。

最後に、有竹隆佐空連専務理事が閉会の辞を述べ、約1時間の記者会見は終了した。

12月8日、国際オリンピック委員会臨時総会「五輪アジェンダ2020」の可決を受け、翌9日、全日本空手道連盟の記者会見が東京・辰巳の日本空手道会館で行われた。

当日は約30社のメディアが集まった。全日本空手道連盟（以下、全空連）の日下修次事務局長が司会を務め、はじめに栗原茂夫全空連副会長が挨拶を述べた。

「昨晩のモナコでの国際オリンピッ

ク委員会（以下、IOC）臨時総会での決定は、世界の空手家にとって歴史的瞬間になりました。今後、種目採用に向けて、笹川堯会長を中心に関係者と協力して取り組みたい」

次に、世界空手連盟（以下、WKF）の奈藏稔久事務総長が「IOC『五輪アジェンダ2020』解説と今後の取組」として説明を行った。

まず、WKFが五大大陸に連盟を置き、現在188の国と地域の空手道連盟を統括していること、そして、世界

剣道文化史を知る資料を多数紹介

第13回剣道文化講演会は、12月6

日に東京・飯田橋のベルサール飯田橋ファーストで450名の聴講者を集めて開かれた。

講演会は2部制がとられ、第1部は筑波大学名誉教授・入江康平氏の講演、第2部は5月に行われる第16回世界剣道選手権大会（16WKC）男子監督の石田利也氏と女子監督の宮崎正裕氏がパネルディスカッションを行った。

■第1部（講演）

入江康平筑波大学名誉教授

『絵図と写真から読み解く剣道文化史』

はじめに、太刀・刀、木刀、撓しな、

竹刀、剣道具の歴史と特徴、その変遷を説明した。その中で、刀法を体系化した流派の発生について触れ、

江戸時代には740〜750もの剣術流派（柔術180、槍術150、弓術50流派）があつたことを紹介した。また、木刀と袋しないの中間程度の衝撃力であ

る竹刀が考案されると、技量の優劣を競う竹刀剣術が流行し、それが主流となり今日に至つたとした。

次に、スポーツと武道（剣道）についての比較を論じ、西洋スポーツと日本武道の「技」に関する考え方の違いを「量」と「質」を例にして

説明。スポーツは得点するところに評価があり、武道（剣道）はどういう経過で結果を得たかが重視されているとした。

その後、入江氏が中心となって編集・出版された『絵図と写真に見る剣道文化史』（全日本剣道連盟）の内容をスライドで丁寧な解説。最後に、剣道は実践第一だが、国際的にも発展している状況を踏まえ、その歴史・文化の知識を持ち、海外にも発信してほしいとまとめた。

第2部（パネルディスカッション）

▽石田利也教士八段（警察大学校教授、16WKC日本チーム男子監督）

▽宮崎正裕教士八段（神奈川県警察剣道首席師範、16WKC日本チーム女子監督）

『私の剣道 これからの剣道』

元NHKアナウンサーの緒方喜治

氏の司会で進められた。両者のプロフィール紹介の後、これまでの剣道人生が語られた。また、平成9年全日本剣道選手権大会決勝（宮崎氏が弟の史裕氏と対戦）と、平成25年選抜剣道八段優勝大会決勝（石田氏が優勝）の映像を流し、それぞれが感想を述べた。

また、世界選手権についての質問もあり、選手選考にあたり、石田氏は「5分で一本取れる攻撃力のある選手」、宮崎氏は「何が起るかわからないので、冷静に動ける選手」を選びたいと述べた。

最後に、再び世界選手権の話題になり、石田氏は「勝てば選手の功績、負ければ監督の責任」の気持ちで臨む」、宮崎氏は「年齢的にもバランスの良いチームになり、よく練習についてきている。与えられた使命を全うしたい」と述べて、締めくくつた。



入江康平筑波大学名誉教授による講演の様子



宮崎正裕教士八段



石田利也教士八段



日本武道館の単行本

著者の80年の生涯にわたる 剣道修錬を集大成した 本格的剣道修行論

好評発売中!



写真提供 剣道時代

剣の清流

全日本剣道連盟相談役・剣道範士九段

堀籠

敬藏 著

(四六判・上製・344頁)

目次

- 第一章 剣道
- 第二章 剣道の歴史
- 第三章 修錬・先人に学ぶ
- 第四章 剣道の極意
- 第五章 武道における「礼」
- 第六章 剣理
- 第七章 指導者としての心構え

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット
(B5判・上製・DVD付・336頁)



高め合う剣道

筑波大学名誉教授

佐藤 成明 著

(四六判・上製・564頁)



刀剣の 歴史と思想

筑波大学大学院准教授

酒井 利信 著

(四六判・上製・346頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



禅の思想と剣術

北海道大学大学院教授

佐藤 錬太郎 著

(四六判・上製・386頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



人を育てる剣道

剣道範士八段

角 正武 著

(四六判・上製・268頁)



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

(四六判・上製・274頁)

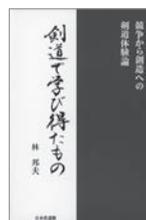


兵法家伝書に学ぶ

文教大学教授

加藤 純一 著

(四六判・上製・344頁)



剣道で 学び得たもの

中京大学教授

林 邦夫 著

(四六判・上製・298頁)